

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおりました。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ...



京菓子司 俵屋吉富

本店 京都市上京区宝町通上立売上ル

電話 (075) 432-2211

烏丸店 京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 (075) 432-3101

平成二十九年 正月号(第一〇七号)
圓明

臨濟禪師一二五〇年遠諱記念
日中合同法要
相国寺派訪中団特集号

大本山相国寺
相国会本部



◆表紙説明

「臨済塔」

中国河北省正定県にある臨済寺の境内にそびえる高さ三〇メートル、八角九重の「臨済禪師澄霊塔（臨済塔）」。

寺の創建は南北朝時代の興和二年（五四〇）といわれ、塔は金時代の大定二十三年（一一八三）から修復されたと伝わる。

一九八〇年代に入り、相国寺派をはじめとする日本臨済宗各派が、寺境内の復興支援を行い、中国仏教協会などにより順次伽藍が再建された。今回の一一五〇年遠諱記念法要は塔前にて行われたため、特別な飾りつけがされている。



平成二十九年 丁酉



写真撮影◎柴田明蘭氏



まるにくん
© 2017相国寺

歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

平成二十九年丁酉年

歳旦

新年の仏法、他家に属する
緑竹青松、老骨に懺うつ
迦葉の投機、遅八刻
破顔微笑、是れ梅花

大龍叟

新年の仏法は、他にゆずるとして、

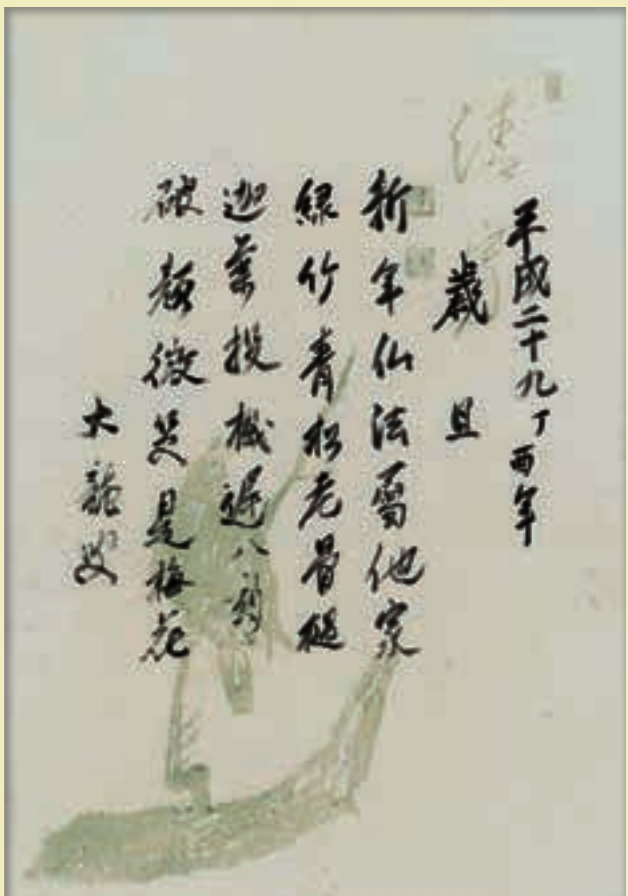
緑竹や青松の景色は、老骨にむち打って見ている。

迦葉尊者の悟りは、遅いことだ。

破顔微笑も梅花には勝るまい。

※編集部注 迦葉尊者

釈迦十大弟子の一人で、頭陀第一と言われ、法脈を受け継いだ。釈迦の説法に対し、一人だけその意味を理解し、破顔微笑した「拈華微笑」の故事がある。摩訶迦葉。





歓迎晩宴会場



歓迎晩宴で挨拶する有馬管長



臨濟寺門前で慧林法師より歓待を受ける



両国僧による記念品などの交換式



日本側の導師を務めた
南禅寺派中村文峰管長猊下



臨濟禅師記念法要(中国側)



記念法要後の日中合同記念写真

臨濟禅師 一一五〇年遠諱記念 相国寺派訪中団特集

おんき

(詳細は、本文26ページ、本山たより71ページを参照)
撮影◎柴田明蘭氏



大相国寺の釋心廣法師による熱烈歓迎



大相国寺佛楽団の演奏を聞きつつ記念撮影



有馬管長も揮毫し謹呈された



釋法師がわが団の為に揮毫



大雄寶殿にて両国が順に謁経



焼香する小林老大師



献花する有馬管長



臨濟塔前にて記念撮影する本派訪中団



日中合同墨蹟展では地元メディアの取材をうける



献花する佐分宗務総長



有馬管長からも墨蹟などを謹呈



覺醒法師より墨蹟などを拝領



玉佛寺の「玉佛」

※掲載については玉佛寺より特別に許可を頂いております。



上海空港にて玉佛寺による熱烈歓迎



玉佛寺住職の覺醒法師の案内で境内に到着



玉佛寺名物の精進料理を頂戴する



同寺でも大雄寶殿にて両国が順に誦経



目次

カテゴリー◎臨濟禪師一一五〇年遠諱記念相国寺派訪中団特集

年頭御挨拶	管長大龍窟 有馬頼底	10
年頭御挨拶	宗務総長 佐分宗順	14
臨濟禪師一一五〇年遠諱記念相国寺派訪中団の報告	相国会会長 片岡匡三	18
臨濟禪師一一五〇年遠諱記念相国寺派訪中団 日程	教 学 部	22
臨濟禪師一一五〇年遠諱記念相国寺派一行		25
日中合同墨蹟展 オープニングセレモニー挨拶	臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底	26
臨濟禪師一一五〇年遠諱記念相国寺派訪中団 感想文		27
相国寺総代 松井八束穂	大本山相国寺用達会 相衆社会長 矢口恵三	28
第四教区 若狭相国会会長 伊藤 彰	柴田明蘭写真事務所 柴田明蘭	29
第二十五回 相国会本部研修会 日程		50
第二十五回 相国会本部研修会 参加者		51
仏道定款	大通院 相国寺専門道場師家 小林玄徳	52
相国寺の庭園(第一回)開山堂庭園の維持管理	植昭 長岡造園 長岡秀晃	55
ほんものを追い求める	演劇塾 長田学舎 河田洋志	60
本山日より		69
坐禅会のご案内		77
教区日より		80
教化活動委員会活動報告	教化活動委員会委員長 佐分宗順	86
相国寺史編纂室日より		94
相国寺 春の特別拝観		106
宝物拝見「鸚鵡牡丹図」		107
承天閣日より「生誕三〇〇年記念伊藤若冲展 前期」「生誕三〇〇年記念伊藤若冲展 後期」		108
カテゴリー◎鹿苑寺境内より出土「北山大塔 金銅製相輪か!」		110
カテゴリー◎第二十五回 相国会本部研修会開催		114
心のすがた		116



内 局

管 長	有 馬 頼 底
承天閣美術館名誉館長	
宗 務 部 長	豊光寺住職 佐分宗順
庶 務 部 長	大光明寺住職 矢野謙堂
教 学 部 長	普廣院住職 山木雅晶
財 務 部 長	眞如寺住職 江上正道
財務・庶務部員	豊光寺副住職 佐分昭文
承天閣美術館館長	養源院住職 平塚景堂
同 事務局長	長栄寺住職 鈴木景雲
同 参 事	養源院副住職 平塚景山
鹿苑寺執事長	林光院住職 澤 宗泰
同 執 事	是心寺住職 和田賢明

慈照寺執事長	桂徳院住職	小 出 量 堂
同 執 事	慈照院副住職	久 山 哲 永
宗 議 会 議 員		
第一教区	長得院住職	緒 方 香 州
第二教区	竹林寺住職	牛 江 宗 道
第三教区	福圓寺住職	大 谷 昌 弘
第四教区	東源寺住職	角 野 元 保
第五教区	正善寺住職	穎 川 孝 生
第六教区	本誓寺住職	延 本 輝 典
宗務支所正副長	感應寺閑栖	芝 原 一 三
第一教区	養源院住職(正)	平 塚 景 堂
	林光院住職(副)	澤 宗 泰
第二教区	竹林寺住職(正)	牛 江 宗 道
第三教区	本派庶務部長兼任	
第四教区	正善寺住職(正)	穎 川 孝 生
第五教区	圓福寺住職(副)	田 中 太 真
第六教区	本誓寺住職(正)	延 本 輝 典
第六教区	感應寺閑栖(正)	芝 原 一 三

U R L <http://www.shokoku-ji.jp>
E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)



本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。

謹奉賀新年



管長 大龍窟 有馬頼底

新年の御祝詞謹んで申し上げます。

檀信徒の皆様には、御元気で御越年のことと存じます。

昨年は、宗祖臨濟禪師一一五〇年の大遠諱おんきにあたり、三月には東福寺において、報恩大接心（大坐禅会）と大遠諱法要を開催し、それから九月には中国の河北省正定県臨濟寺に於いて、日本からは約一九〇名の寺院と檀信徒の方々、中国側からは二百名の方々が御出席くださり、実に盛大な大法会を行うことが出来ました。

今年も、日本臨濟宗中興の祖、白隠はくいん慧鶴えかく禪師の没後二百五十年の遠諱にあたり、これまた大きな法要となります。昨年に引き続き北朝鮮の開城ケソンにある、大覚国師義天ゆかりの靈通寺を巡拝したのですが、その訪朝団団長をお願いしたのが、静岡県沼津市原にある白隠宗松蔭寺住職の宮本圓明大和尚であります。その好因縁により、本年の松蔭寺白隠禪師の二百五十年遠諱大法要の導師の依頼があり、引き受けさせていただきました。小柄にとっても光栄な事であります。

承天閣美術館では、昨年に続いて行いました「伊藤若冲展」が大好評で、十万人もの入館者の皆様に見ていただきました。今更ながら若冲人気のすさまじさに驚いているところでございます。新資料を含めての後期若冲展もご期待ください。また、それ以降の展示では、白隠禅師・仙厓せんがい禅師などの「近世禅林美術展」を予定しており、これまた乞うご期待です。

さて、昨年から進めております寺務棟、相国寺史編纂室の増改築工事は、今年の八月に完成を見ることとなります。境内整備も着々と進んでまいりまして、ガスパ管・水道管・側溝の整備など本山境内も一新されます。これも佐分宗務総長共々皆さんの御協力があつてのことであり、ここに感謝いたします。

第三教区鳥取地方の震災をはじめ、各地で起こっているさまざまな災いは、我々の心を痛めるところであります。昨年春、熊本県八代市で開催予定であつた「相国寺名宝展」も熊本地震の影響で延期となり、本年四月に改めて開催されることになりました。

どうか相国会の檀信徒の皆様方の御健勝と共に、酉年の、本年に幸あれと祈念致しまして擱筆します。



宗務総長 佐分宗順

本派寺院、相国会、檀信徒の皆様、あけましておめでとうございます。

昨年後半期は臨濟禪師一一五〇年・白隠禪師二五〇年遠諱行事の最後を締めくくる、二つの大きな催しが無事に終了いたしました。一つは東京国立博物館における「禅—心をかたちに」展が十月十八日から十一月二十七日まで開催され、京都国立博物館での八八、三二五人を上回る一三三、六二九人の来館者があり、盛況のうちに閉幕いたしました。そしてもう一つは、日本と中国合同の大法要が昨年九月七日、中国河北省石家荘にある臨濟寺において、盛大に執り行われました。日本からは、臨濟宗黄檗宗連合各派合議所が中心となり、各派管長、僧堂老大師、宗務総長らをはじめ、約一九〇名が参列し、また相国寺派は訪中団を組み、九月六日に日本を出発し、有馬頼底管長をはじめ小林老大師、本山事務局、末寺、檀信徒の皆様方、総勢二十一名の参加があり、七日、臨黄合議所と合流してこの記念すべき大法要に参列いたしました。日本側は臨黄合議所を代表し、中村文峰南禅寺派管長が挨拶、中国側は中国仏教協会会長、臨濟

寺住職らが挨拶し、晴天の中、臨濟塔を前にして盛大のうちに法要は円成いたしました。法要を終えて、翌日から相国寺派訪中団は友好寺院締結をしている河南省開封にある大相国寺を訪問、住職の歓待を受けました。その後上海に移動し、玉佛寺にも参拝し、九月十日無事帰国いたしました。

振り返れば、前回の臨濟禪師一一〇〇年の遠諱は昭和四十一年（一九六六）、今回同様東福寺で営まれましたが、訪中団としては、鹿苑寺村上慈海長老が団長となり訪中されています。中国は毛沢東の文化大革命の最中で、多くの文化財や寺院が紅衛兵によって破壊され、宗教的な行事などは厳しく規制されていました。また一九六四年から始まった米国の北ベトナム空爆で始まるベトナム戦争のさなかでもありました。

六年後の昭和四十七年（一九七二）には、日本の田中角栄首相は、米国に先駆け、日中国交を回復、周恩来首相と会談を果たしています。

それからさらに六年後の昭和五十三年（一九七八）鄧小平の改革開放政策により日中の交流が活発になり、昭和五十六年（一九八一）には日中友好臨濟黄檗協会「第一次友好の翼訪中団」が結成され、梶谷宗忍相国寺派管長を団長に約六十名が訪中しています。さらに昭和五十八年（一九八三）には相国寺納経団を募って訪中、当時は文化部長であった有馬頼底師の努力によって荒廃していた中国の寺院再建、特に開封の大相国寺の再建と住職の派遣を訴え、その後精力的に訪中されました。

そのかいあって昭和六十一年（一九八六）には趙州塔、臨濟塔の修復が完成し、落慶法要が営まれています。平成四年（一九九二）には開封大相国寺が再建され落慶法要と、

住職の晋山式が行われました。日中相国寺友好訪中団が生まれ、梶谷宗忍相国寺派管長を団長にこの落慶法要、晋山式に出席、日中国交回復二十周年記念行事を機に、日中両相国寺の友好寺院締結がなされました。十年後の平成十四年(二〇〇二)には日中国交回復三十周年、日中相国寺友好寺院締結十周年、大相国寺新任職の晋山記念式典が催され、相国寺訪中団が参列しています。

今回の訪中を終え、前回の臨濟禪師の遠諱から半世紀を経て、中国の宗教事情も大きく変わりました。共産党独裁ではあってもその経済政策や、宗教政策は大きく路線変更され、日本の寺院からの荒廃した中国の寺院復興の訴えや支援金、台湾や世界の華僑の人たちの中国寺院への寄付や布施は、中国政府を動かしたに違いありません。また中国文化を担ってきた中国仏教の遺産は世界の観光客を集める資産でもあり、その経済的波及効果は現在の中国経済の発展に大きく貢献してきたことは間違いありません。少なくとも仏教寺院に関しては開封の大相国寺、上海の玉佛寺などは大きく寺域を増やし、両寺院の住職からはこれからも新しい伽藍が建設される予定と聞きました。中国仏教のこれからの発展は中国の経済発展と政策に大きく影響されることでしょうが、中国人民のための仏教として発展することを期待したいと思います。

さて、私たちの日本は戦後七十年を経て大きく発展しましたが、後半はその結果もたらされた公害や、環境破壊の問題の解決に向けて方向転換を図らなければなりません。またバブル経済の崩壊後、私たちの世界は発展し続けるという神話は崩れ去りました。くわえて度重なる自然災害や、大地震の頻発、特に東日本大地震によっ

て引き起こされた原発の崩壊、原子炉のメルトダウン事故で、未だに地域の再建の道筋もたない状態です。原発は安全で低コストという神話にだまされてきたといえます。少なくとも私たちは進歩し続ける、いずればより安全で、核燃料の廃棄処理の技術も進歩し続け解決に至るに違いないと思ってきましたが、現実には廃炉の技術や、核廃棄物質の処理方法などは何も解決されなまま核廃棄物質は増え続けているのが現状です。このまま原発を続けようというのでしょうか。

私たちは立ち止まり、今までの進歩の結果、排出され放置してきたものを片付けるための技術革新と発想の転換が必要です。進歩のための技術革新ではなく、後片付けのための技術革新です。グローバル化の一方で格差の拡大が原因で起こる様々な争いや不安を解消するためには貨幣経済の信頼と、人間の信頼関係を再構築するための新たなシステムの構築が必要でしょう。

仏教は人間中心ではない、自然の中の一部として生きていくための知恵を授けてくれる貴重な宗教であると思います。わたくしたちは自分たちの歩んできた歴史に学び、過去の同じ過ちを繰り返さないために、歴史認識と文化を守るための努力を続けなければなりません。臨濟禪師の遠諱を終え、これからの新たな一歩を踏み出すことにしたいと思います。

本年も皆様にとって良い年でありますよう、健康には十分気をつけて頂き、相国寺派の発展と、相国寺派各ご寺院の隆盛のため、ご健勝にてご活躍頂きたいと願っております。

年頭御挨拶



相国会会長 片岡 匡三

謹賀新年

有馬頼底管長猥下をはじめ、本派寺院御住職、相国会会員、檀信徒のみならず、新春を迎え、益々御健勝のことと拝察いたします。

今年もよろしく願いたします。

昨年は、災害多発の年でした。熊本では、数度にわたり大地震が発生、その度に甚大な被害をこうむり、又、余震も長いこと続き、不安と不自由な生活を強いられたことと思ひ衷心より御見舞申し上げます。また、気象の変

動も激しく、数度にわたる台風と集中豪雨で河川の氾濫や土砂崩れで、家屋の流出があり、田畑が壊滅状態に陥りました。その上、多くの尊い人命が犠牲となりました。御冥福をお祈りいたします。また、一日も早い復興を祈念してやみません。

昨年三月には、臨濟禪師一一五〇年、白隱禪師二五〇年、お二方の遠諱大法要が東福寺で厳肅にとり行われました。

九月には、訪中団により、中国石家莊の臨濟寺に於て、臨濟禪師一一五〇年遠忌記念日中合同の大法要が盛大に興行されました。団員一同、祖師尊崇の念厚く、今日まで法灯を大切に守り、ひたすら布教に務めていることを報告なさり、懺悔と深い感謝の一時をもたれたに違いありません。誠に慶賀の極みと存じます。

父（片岡仁志、京大名誉教授、前相国寺信徒総代）は、「教育は、とことん

聞いてやることだ」と普段の生活の中で示してくれました。私は、今、六十年間の教育職の生活をふり返ってみて、特に若い教員のころ「知識」の切り売りに専念して「聞き出すこと」を疎かにしてきたのではないかと反省しています。

梶谷宗忍止々庵老大師（相国寺派前管長）は、「夢中に夢を夢みる」ことを教えて下さいました。父が平成五年五月十七日、九十一才で亡くなりました。しばらくして、御老師から電話をいただきました。「匡三、総代をやれ。」「はい。」「布施は一万円だ。」「はい。」「これだけです。忘れられないご老師のおことばです。その後、平成六年相国寺信徒総代を拝命いたしました。

私は、毎朝七時、仏前で「般若心経、白隠禪師坐禪和讃、四弘誓願文」を読み、最後に僧堂の禪堂の外に掛かる「板木」に記された「偈」を唱えます。

生死事大 光陰可惜（しょうじじだい、こういんおしむべし。）
無常迅速 時不待人（むじょうじんそく、ときひとをまたず。）

朝一番、心静かに自分をしっかりと見つめる貴重な一時として続けます。

有馬頼底大龍窟管長猥下は、一切衆生済度のため世界を巡っておられます。念願の御親教は、平成十五年十月第六教区鹿児島に始まり、平成二十六年九月第一教区京都本山の方丈に於て、目でたく終了いたしました。管長猥下は常に大慈悲心に満ちた「微笑み」で全国九十三ヶ寺の寺院、信徒のものを廻られました。ありがとうございます。一同、感激、感謝です。

あの優しく温かい「微笑み」で本年も私ども檀信徒一同を教化教導、よろしくお願いいたします。

御健勝ひたすら祈念いたしております。

臨濟禪師一一五〇年遠諱記念 相国寺派訪中団の報告

教学部

平成二十八年九月六日から十日まで、相国寺派では有馬管長を筆頭に小林老大師、佐分宗務総長ほか僧侶十二名と相国寺総代をはじめ在家九名の計二十一名の訪中団を組み、宗祖臨濟禪師一一五〇年遠諱記念の「日中合同法要」に臨濟宗黄檗宗連合各派合議所（臨黄合議所）の一団として参加した。今回日本側からは、南禅寺派中村文峰管長を総団長に、妙心寺派嶺興嶽管長、天龍寺派佐々木容道管長、円覚寺派横田南嶺管長ほか各派師家、大方尊宿、宗務総長など総勢一八七名の僧侶と在家檀信徒が訪中した。

今回の参加者、日程、あるいは団員の感想文について



臨濟寺発行「車両通行証」

ては別稿に掲載したので、そちらを合わせてご一読いただきたい。

初日は河北省石家荘市において、河北省佛教協会主催の歓迎晩宴があり、記念品の交換が行われた。二日目は正定県にある臨濟寺の臨濟塔前にて日中合同法要が両国約三五〇名出席のもと厳修された。式に先立ち両国代表の挨拶、献花が行われ、法要では中国側は臨濟寺住職の慧林法師が導師を務め諷経が、続いて日本側は南禅寺派中村管長を導師に大悲呪が諷誦された。法要後には日本側主催の答礼宴の昼食会、さらに河北省博物院にて日中合同墨蹟展オープニングセレモニーが開催された。セレモニー後は、石家荘趙州の柏林寺訪問参拝と趙州塔拜塔もあり、臨黄合議所全体の公式行事は無事終了し解団式及び懇親会が行われた。

三日目からは相国寺派訪中団のみで、列車に乗車し河南省鄭州へ移動。鄭州の東に位置する開封市にあり相国寺との友好締結寺院である大相国寺を表敬訪問し、住職の釋心廣法師らの出迎え、佛楽団僧侶の演奏など熱烈な歓待を受け、大雄寶殿本尊前にて両国で諷経をし、記念品と墨蹟の交換、境内のご案内をしていただいた。

四日目は空路上海へ移動後、上海市内の玉佛寺を同じく表敬訪問し、住職の覺醒法師らの出迎えと熱烈な歓待を受け、本尊前にて両国で順に諷経をした。精進料理を頂戴し、記念品の交換など交流を深めた後、上海博物館を見学し、翌日全員無事帰国することができた。

今回の訪中は、改めて日中両国の佛教界が二十世紀の後半より重ねてきた佛教興隆、

友好促進、またそれにかかわる支援などが結実したことを互いに確認する機会となっただけでなく、さらに次代への継承を誓い合う場ともなったのは、大変印象的であった。

臨濟禪師記念法要の香語は、左記の如し

日中合同法要日本側導師

南禪寺派中村文峰管長猊下 香語



高掲死生自在身	高く掲ぐ死生、自在の身
栽松臨濟実頭人	松を栽ゆる臨濟、実頭の人
傳來千佰五旬念	傳え來たる、千佰五旬念
京洛石家総是真	京洛石家、総に是れ真

右 文峰九拜

昭鑑

臨濟禪師一一五〇年遠諱記念相国寺派訪中団 日程

9月6日(火) くもり・雨

10時 関西空港発 空路 北京空港へ
12時15分 北京空港着 河北省石家荘へ
18時 河北省佛教協会主催歓迎晩宴

9月7日(水) 晴れ

7時30分 臨濟寺へ
8時 臨濟寺「臨濟塔」前にて日中合同法要
12時 日本側主催答礼宴
河北省博物院にて日中合同墨蹟展
オーブニングセレモニー
趙州柏林寺訪問参拝

9月8日(木) 晴れ

9時9分 高速列車で鄭州へ

9月9日(金) 晴れ・くもり

10時58分 鄭州東駅着
13時45分 大相国寺表敬訪問
諷経・記念品交換・境内拝観など

5時30分 鄭州出発
8時30分 鄭州空港発 空路 国内便搭乘
9時30分 上海虹橋空港着
11時 玉佛寺表敬訪問
諷経・精進料理昼食
記念品交換・境内拝観など
14時 上海博物館見学

9月10日(土) くもり・晴れ

12時10分 上海浦東空港発 空路 関西空港へ
15時15分 関西空港着 帰国

臨濟禪師一一五〇年遠諱記念訪中団 相国寺派一行

参加者氏名

相国寺関連役職、他

団長 有馬 頼底	相国寺住職	相国寺派管長
小林 玄徳	大通院住職	相国僧堂師家
佐分 宗順	豊光寺住職	相国寺派宗務総長
荒木 元悦	光源院住職	萬年会理事
小出 量堂	桂徳院住職	慈照寺執事長
矢野 謙堂	大光明寺住職	教学部長・記録
江上 正道	眞如寺住職	教学部員・管長隠侍
佐分 昭文	豊光寺副住職	財務部員・隠侍補佐
荒木 泰量	光源院副住職	萬年会部員・隠侍補佐
平塚 景山	養源院副住職	承天閣美術館参事・隠侍補佐
田中 太眞	圓福寺住職	第四教区宗務支所 副支所長
須賀 集信	相国僧堂雲衲	僧堂老師隠侍
松井 八束穂	相国寺総代・大光明寺檀家	松井酒造代表
松井 節子	同夫人	
矢口 恵三	相国寺用達会相楽社会長	矢口浩悦庵代表
矢口 裕子	同夫人	
伊藤 彰	圓福寺総代	第四教区相国会会長
鋸谷 茂	圓福寺檀家	第四教区相国会会員
長谷部 斎	相楽社	竹中工務店役員補佐
鈴木 康正	相楽社	竹中工務店京都支店営業部長
柴田 明蘭	大光明寺檀家	柴田明蘭写真事務所カメラマン・公式記録

日中合同墨蹟展 オープニングセレモニー挨拶

尊敬する明海長老、中国佛教協会及び河北省佛教協会の諸大徳、本日ご列席の諸先生方、日中合同墨蹟展の開式にあたり、日本側を代表として一言ご挨拶申し上げます。

今から九年前、河北省臨濟寺より、日中仏教友好の証あかしとして、両国高僧による墨蹟展を中国で開催したいという申し出が日本側に寄せられました。日中臨濟宗黄檗宗各派の管長・ご老師方にご協力をいただき準備を進めてまいりましたが、臨濟寺の住職不在の時期とも重なり開催には至りませんでした。

今回、臨濟禪師一一五〇年遠諱の正当年に、日中両国諸大徳ご来場のもと、河北省博物館において日中合同墨蹟展が開催できますことは、誠に喜ばしい限りです。

この墨蹟展を通して、日中両国禅僧の絆が深まり、日中両国人民世々代にわたる友情が発展することを祈念して私の挨拶とさせていただきます。

臨濟宗相国寺派管長 有馬 頼底



墨蹟展オープニングセレモニーで挨拶する有馬管長

心の旅路



相国寺総代 松井 八束穂

相国寺派臨濟禪師一一五〇年遠諱記念訪中団、団長有馬頼底管長猥下に臨濟宗相国寺派として総勢二十一名、私と家内も随行させて頂きました。

九月六日(火)早朝、関西空港を出発、北京空港到着、バスで河北省・石家荘に赴き、ヒルトン石家荘ホテル宴会場に於いて会見式、その後全員で河北省仏教教会主催歓迎晩宴が開かれました。翌七日は正定県臨濟寺にて、日中合同法要が営まれ、多数の老若男女の信者様と門前では数十人のお坊様が合掌されて、私ども一行を迎えて下さいました。澄みきつた青空に、何度か写真で拝見したことのある臨濟禪師澄霊塔が毅然として聳え立ち、正に中国の歴史と伝統に敬意を表しました。

私ごとですが、鎌倉五山の第一刹建長寺が宗派の師弟教育のために設立された「宗学林」を前身とする鎌倉学園高校が、私の母校であります。教育理念は「自主自立」の禅の精神を受け継いで、知・徳・体の教えを受けて青春時代を過ごし、中高年には京都五山に囲まれ人生の大半を臨濟宗の教義を授かる絶好の環境にありましたが何分、浅学非才の私に、臨濟宗が心の安定、統一の救援に手を差し伸べて下さり感謝しています。

臨濟禪師の有名な言行録に「一無位の真人」があります。禅師の筋の通った豪放な野生のエネルギーとその慈愛に満ちた思いに馳せて、法要は大陸の強い陽射しが差し込みましたが、全員立誦の塔参諷経のおかげで実に爽やかな涼風を受けました。

その後ホテルに戻り、日本側の主催の答礼宴の昼食会を経た後、ホテル隣の河北省博物院へ、日中合同墨蹟展オープンセレモニーに出席しました。日中仏教界記念臨濟禪師一一五〇年書法作品が展示。有馬頼底管長猥下、墨蹟「瑞烟呈福壽」(瑞烟、福壽を呈す)。「めでたき祥烟が幸福と長寿を提示している」。

澤大道国泰寺派管長猥下、墨蹟「無利不現身」。「神通力を持つ観音様は、十億億土彼方の世界であろうが刹(一瞬)にして赴くことができる。浄土であれ、穢れであれ地獄であれ餓鬼道であれ、観音様が(おすがた)を現さない世界はない」。

故田中芳州、前大通院相国僧堂師家、墨蹟「那箇是正眼」。臨濟録上堂二、公案の問答で麻谷問う「千本も手のある千手観音のどの手が本当の正法眼を持つている手でしょうか?」臨濟答えて曰く「その問答は、そのままワシがお前さんにお返し致そう。」「さあ答えよ!速やかに答えよ!千手千眼観音のいったいどの手が正法眼を備えた手か示せ示せ」一本の正法眼を得ているか否かを点検する為の問答とのこと。社会生活を送る中で誘惑・悪事・悪行

が蠢く毎日の中で一生惑わされずに、正しい道、正しい商人道（利潤の追求と道徳の調和）を貫き通し自信と信仰を持ちなさいと諭されました。

墨蹟展式典終了後、趙州柏林寺訪問参拝。柏林禪寺は中国の歴史ある禪寺です。境内には河北省仏学院があり、河北禪学研究所もあり、舍利塔は国の定める重点文物保護單位に指定されています。

翌八日は、早朝石家莊駅から高速列車にて鄭州へ到着後、バスで開封大相国寺訪問参拝。河南省開封市にあり創建五五五年以後一五〇〇年余の歴史を持つ著名な仏教寺院であります。必見は羅漢堂（八角瑠璃殿）の中心にある高さ七メートルの全身に金箔が貼られた精緻な千手千眼観音像が安置されています。空海の留学された御寺でもあります。参道の左手に木を引き抜く男性の像があります。名前は魯智深（ろ・ちしん）と言われ、中国の小説四大奇書の一つであります「水滸伝」の登場人物で義侠心に厚く弱い立場の人間には決して拳を向けない人物との事です。尚、有馬管長猥下の著書「中国仏教の旅（大相国寺）」―美術出版美乃美発行―があります。

翌九日早朝に鄭州空港発、上海虹橋空港へ到着。上海市内の玉佛寺訪問参拝。上海最大の禪宗寺院であります。一八八二年、普陀山の高僧であった慧根が、ミャンマーから二体の玉佛を迎えて建立したことから名付けられました。玉佛楼に安置されている玉佛座像は高さ一・九二m、幅一・三四m。中国最大の玉佛で、体の無数の瑪瑙や翡翠石が飾られた珍品であります。また精進料理は大変美味しいと評判です。

こうして慌ただしく四泊五日の旅をさせて頂きました。四つの御寺を訪問参拝させて頂きました。積迦に説法、孔子に悟道と申しますが、人類の恒久平和を本望ならば政界や財界に任せては、到底無理な事であります。国連のユネスコ憲章には「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とあります。宗教の根本生命は寛容性にあります。ブッタとは目覚めた人、真理（この世の道理）を悟った人という意味と教わりました。

今こそ仏教の教義が必要不可欠とした心の旅路でありました。訪中団の皆様、本当に有難うございました。



大相国寺でお経を誦む



玉佛寺で精進料理をいただく

臨濟禪師一一五〇年遠諱記念 訪中団に参加して



大本山相国寺用達会
相楽社会長 矢口恵三

去る九月六日から十日まで、私と家内は臨濟禪師一一五〇年遠諱記念訪中団の一員として、初めて中国の河北省石家荘正定県臨濟寺を訪問させていただきました。その後、趙州の柏林禪寺、続いて河南省鄭州開封の大相国寺、上海の玉佛寺と禪寺を巡りました。初日は石家荘市内にあるホテルで河北省仏教協会主催による歓迎レセプションが盛大に行われました。日本側からは、臨濟宗黄檗宗連合各派総勢一八九名、中国側からも中国仏教協会や関係者約百名が一堂に会し、今日までの交流の過程や合同法要のいきさつ等が紹介され、和やかな時間が過ぎました。翌七日、バスで臨濟寺に到着すると、沿道から信者さんや沢山の人たちが合掌してお迎えくださいました。

宗祖臨濟義玄を輩出した臨濟寺に関して、訪中前に少し予習をせねばと思ひ関連書物に目を通しての情報ですが、臨濟寺は、中国南北朝時代の東魏孝静皇帝の興和二年(五四〇年)に建立された古刹。臨濟宗を開いた臨濟義玄禪師は、晩年の十三年間をここで住職を務め、懿宗皇帝の咸通八年(八六七年)に入寂されました。懿宗は慧照大師と諡し「澄靈塔」という高さ三〇・四七メートルにもおよぶ瑠璃瓦の端麗な八角九層の塔を建立したのでした。その後も幾度か修復され、戦火をもくぐり抜け残存した塔でした。中国ではご承知の通り、

一九六六年から十年間続いた文化大革命で宗教が徹底的に弾圧され、寺の歴史的建造物も修復されず放置されていたのですが、この「澄靈塔」を今日の姿にしたのが、一九七九年当時日本の禅文化研究所長でもあった故山田無文老師で、老師の呼び掛けで臨黄協会を組織し、寄付金を集め当地の政府の出資により修築に至ったのでした。

その日は朝から雲一つない好天に恵まれ、西広場「澄靈塔」の前に設けられた祭壇に、日中合わせ総勢約三五〇名が集結し盛大な法要が厳修されました。太陽が照りつけ日除けのない広場は、それはもう大変厳しい暑さでしたが、双方の禅僧はみな微動だにせず読経を続け報恩を捧げておられました。そのお姿に、臨濟禪師の教えが一一五〇年の歳月を経てもなお途絶えることなく脈々と引き継がれ、禅僧として



柏林寺境内にて

今日まで積み重ねてこられた精神をお見せいただきました。この記念すべき日に私共が「澄霊塔」にお参りできた法縁は、まことにありがたく喜びいっぱいでした。合同法要を終え、中国茶の接待や記念写真撮影があり、その後場所をヒルトン石家荘に移し、日本側主催の答礼宴が行われました。たいへん美味な精進料理を満喫させていただきました。続いてホテルから歩いて五分足らずの河北省博物院にて「日中合同墨蹟展オープニングセレモニー」が開催されました。有馬管長猥下のご挨拶の際に、「墨蹟」のお話があり、広義には「仏教人の書蹟」、狭義には「禅人の書蹟」を指して「墨蹟」と呼称するのは我が国の風習であり、中国においては「宮廷、宮界、仏院の人の書蹟を別称する例はなく、墨書・筆蹟すべて同義語」として「墨蹟」の用例がある。ほかに「墨蹟、墨述、墨痕」なども見られて、我が国のように特例は存在しないとご説明いただき、大変勉強になりました。その後訪れた趙州柏林禅寺「趙州塔」の前でも法要が営まれました。帰りに有馬管長猥下から、これが「庭前柏樹子の公案で有名な柏槓ヒヤクサンの木」ですよと教えられたのですが、樹齢千年を超える木の肌は、何とも表現し難くまるで何匹もの龍が木に巻きついているかのようにも見え不思議な木でした。翌日は、鄭州の開封を代表する古刹「大相国寺」を訪問しました。本山の名前の由来にもなった禅寺です。たいそう賑やかな鳴り物と共に多くの方々の熱烈な歓迎を受けました。注目は五百羅漢殿。八角形の屋根の下、殿内に安置されている高さ七メートルほどの全身に金箔が貼られた千手千眼佛は四方から拝観できる造りになっており圧巻でした。合同法要の後、釋心廣御住職と有馬管長猥下は終始和やかに会談され、互いに墨蹟をしたた



大相国寺 千手千眼観音像

められるというサプライズもありました。本山に贈られたものと同じ趙撲初会長筆の友好記念碑や、本山にもある「相国霜鐘」の大鐘を撞かせていただきました。

最後に訪れた上海を代表する古寺「玉佛寺」でも、盛大な熱烈歓迎をしていただき、合同法要を終え有馬管長猥下と覺醒御住職との和やかな会談の後、上等な精進料理でお接待を受け感激いたしました。天王殿、大雄寶殿等宋代の宮殿様式の建造物が立ち並び、今後の境内構想模型も見せていただきました。しかし何と言っても忘れられない仏像が、般若丈室二階の玉佛楼に安置されていた中国最大の玉佛坐像です。その仏像にはヒスイやメノウの

宝石がふんだんに埋め込まれ、お顔は微笑みを湛え、何とも美しく輝いておられる表情が深く心に残りました。

以上、訪問先の禅寺では大変よくしていただき、これも有馬管長猥下や本派御一山が、長きに渡り地道に交流活動を実践されてこられた賜物と思ひ、私共がその恩恵に与り誠にありがたくもったいないことでした。短い日程でしたが、お蔭様で有意義で得難い貴重な時間を持つことが出来ました。お連れ下さった有馬管長猥下をはじめ、折にふれ何かとお心遣いをいただきました相国寺派御本山和尚様方々、仲良くご一緒いただいた皆々様に心から厚く御礼を申し上げます。

合掌



大相国寺で友好の鐘を撞く

驚きの中国禅寺紀行



第四教区
若狭相国会会長 伊藤 彰

昨年の「円明」正月号での訪中団募集のお知らせをみて、今後の人生ではこのような機会はないと思ひ、万難を排し参加させていただきました。

●九月六日(火)

午後一時頃快晴の北京空港に相国寺派訪中団無事到着。私にとつては中国初上陸である。心配していた大気汚染も無い。

北京から南へ約三百キロの河北省の省都石家荘に向け、貸切バスで出発。高速道路は



大相国寺での大建築物

四車線で良く整備されているが、如何せん自動車が多すぎ、大渋滞の洗礼を受けた。午後七時半頃、ようやく歓迎晚餐会会場に到着。日本側の出席者は約百八十名であったが、臨済宗黄檗宗十五本山の中では、相国寺派は末寺数の割に参加者は多い。

中国・日本側代表挨拶、記念品交換等のセレモニー後、精進料理を味わいながら在家参加者間の親睦を深めた。

●九月七日(水)

雲一つない快晴。臨済寺まで約十五キロ。風景が田舎らしくなり、修復中の城壁の門を通過すると、道路の両脇に門前町の店らしきものが見えてきた。バスを降りてガイドの指示に従い進むと、道路の両脇に多くの信者が、小さな声で何か唱えながら合掌しての出迎え。山門までの約二百メートル間を等間隔で並んでおられ、その姿を見て胸に込み上げてくるものがあった。

山門前で多くの僧侶の出迎えを受け境内へ。最初に目についたのが高くそびえる臨済塔(仏舍利塔で日本風に言えば九重の塔)。文化大革命で伽藍はほとんど破壊され、残っていたのは瓦が落ちかけたこの臨済塔のみであったとのこと。その後の管長猥下をはじめとした日本側の支援により復興、再建された。

臨済塔を真正面に配した日中合同法会会場には、念仏のような音楽が繰り返し流され、すっかり中国仏教の世界に引き込まれた。音楽は人を感化させるのに良い手段である。法

会が始まり、中国のお経を初めて聞いたが、念仏、声明のようで驚いた(帰国後、偶然黄檗宗のお経を聞いたが似ている)。日本側は大悲呪を唱えられた。日中お互い百人を超える読経は圧巻であった。約一時間強の法会終了後、大雄寶殿(佛殿)等伽藍を拝観し、最後に参加者全員で臨済塔をバックに記念撮影を行い一連の儀式は終了した。

石家荘に戻り、日本側主催の「答礼宴」、そして「日中合同墨蹟展」のオープニングセレモニーに参加後、柏林寺を訪問参拝した。

柏林寺は中国北部最大の禅寺で、石家荘から東南に約四十五キロのところにある。唐の末期に、寺へ訪ねてきた修行僧の誰にでも、お茶でも飲んで行けと言われた「趙州喫茶去」で有名な趙州禅師が四十年間住職をされていたお寺である。ここでも多くの僧侶の出迎えを受けた後、真つ先に趙州塔にお参りし、大悲呪が唱えられた。参道の横に樹齡一千年を超える柏ヒトシゲの木を見つけた。長年、内陸部の厳寒に耐え、柏林寺を見守ってきたのであろう。境内の奥には三層の屋根をもった建物(楼)が有り、その巨大さに驚き。楼内中央には五体の仏像が祀られており、僧侶と信者が大きな声で読経中であった。

●九月八日(木)

今日からは相国寺派のみの行動となり、河南省開封の大相国寺を訪問参拝。大相国寺は相国寺の名前の基となった禅寺である。

山門前に大相国寺住職、十数名の楽団僧侶が楽器を弾き、にぎやかに出迎え。

管長猥下を先頭に大雄寶殿にお参りし、まずは中国側の読経。引き続き日本側は般若心経を唱える。その後、五百羅漢、四面千手千眼觀音菩薩等を案内された。高さ七メートルの四面千手千眼觀音の四面の顔は少しづつ異なるとのことであったが同じに見えた。伽藍の一番奥に巨大な建物を発見。まるで織田信長の安土城のような形状・色彩で二年後に完成予定とのこと。寺に勢いを感じる。

その後、接待所に案内され歓談。中国僧侶方の端に平服の人がいたが、どうやら中国仏教協会の役人のようなであった。

記念品交換の後、大相国寺住職の求めにより管長猥下が揮毫された。突然のことだったが、管長猥下の自信にあふれた書道家としてのお姿を初めて拝見させていただいた。揮毫された「無事貴人」等の墨蹟は大相国寺の寺宝になるであろう。最後に相国寺が寄進を受けたのと同じ梵鐘を撞き、相国寺・大相国寺友好の碑を見て、大相国寺を後にした。



玉佛寺での「熱烈歓迎」横断幕

● 九月九日(金)

鄭州から飛行機で上海虹橋空港へ。空港ビルで玉佛寺の僧侶方が、長い横幕を持ち熱烈歓迎。思わず感激。先導され上海市内の玉佛寺に到着。バスを降りると山門前に多くの僧侶方が出迎え、大雄寶殿へ案内された。大雄寶殿には「熱烈歓迎」の横断幕が掲げられており嬉しくなる。三尊仏(中央はお釈迦様)に向かって中国側、続いて日本側の読経。中国側のお経の中で大悲呪が聞きたれ、思わず唱和した。伽藍を見ながら奥の建物一階へ。ここで紅茶の接待を受け小憩歓談。

その後、二階に案内され歓迎の昼食会。玉佛寺住職、管長猥下が挨拶され、乾杯の後、精進料理が次から次へと出されてきた。どの料理も上品で美味しい(料理研究家ではないから解説はできないが)。当然、肉や魚・貝類は使われていないが、見栄えは肉・魚・貝らしく、歯ごたえや食感もなかなかのものであった。紹興酒はまるやかで癖がなく美味しく、思わず飲みすぎてしまった。玉佛寺境内には精進料理の店があり、上海では美味しいことで有名らしい。

昼食後、玉佛樓の座佛を拝観。まるで女性のような顔、体つきで艶があり魅了された。この座佛は清の時代にミャンマーから運ばれて来たもので、巨大な翡翠の玉から彫り出され、表面に無数の瑪瑙や翡翠石が埋め込まれた逸品とのこと。特別に許しを得て近づき、全員で読経と焼香。最後に臥佛殿に入り、もう一体の玉佛である釈迦涅槃像(これも女性のようで綺麗)にお参りし、玉佛寺を後にした。

その後、上海博物館を見学しホテルへ。最後の晩餐后、黄浦江(揚子江の支流)のナイトクルーズで夜景を楽しむ。歴史建築群と近代ビルのライトアップによる光のショーが素晴らしい。晴

日々の行動等は以上のとおりですが、四禅寺を表面的にみて感じたことです。

◎日本との違いは、お経のリズム(黄檗宗に近い)、僧侶の衣(黄色が主でシンプルな感じ)、伽藍構成(主要な建物が一直線に並んでいる他、横にも回廊等建物が有り四方を囲んでいる)、伽藍の色彩(紅色、黄色)と造り(屋根の先端上がり、瓦の形)、仏像は新しい(文化大革命で破壊されたためか)等。

◎日本の禅寺は山や樹木の中にあり静かであるが、臨濟寺を除き街の中で、修行道場というよりも僧侶育成の学校の感じ。

◎柏林寺、大相国寺、玉佛寺は新しい建物が建築中で勢いがある。田舎にある臨濟寺の整備が最も遅れている。拝観者が少ないため整備が後回しになっているのであろうか。

◎役人(共産党)の管理・監視下にあると思われる。大相国寺では役人と思われる人が同席。日本の政教分離と大きな違い。

次は、目の当たりにした中国の現状、雑感です。色々な意味で凄惨な国です。

◎高層ビルの建設ラッシュは今でも進行中。インフラ(高速道路、高速鉄道、巨大な空港・

駅ビル等)は充実。土地は国のものだから可能なだろう。

◎北京、石家荘では慢性的な車の大渋滞。強引に車線変更、割り込み等しながら前へ進む。また、バイクも多く、専用の走行レーン有り。

◎都会と田舎の近代化の差が大きい。田舎では、日本の昭和四十年代初めの感覚(建物古い、舗装少ない、トイレの整備遅れ等)

◎交通機関利用時のセキュリティチェックは厳しい。高速鉄道に乗車するにもパスポート・身体・荷物の検査有り。切符にはパスポート番号、氏名が記入(外国人だけか)されている。また空港内に入るにも身体検査。これも社会が不安定でテロが多いためか。

◎日本度は低い。日本車は少なく、フロントのエンブレムは日本車と同じだが、会社名は中国の会社。目に付いた店舗は石家荘駅ビル内の牛井吉野家、鄭州空港内の上島珈琲、



玉佛寺の涅槃像

上海のホテル前のビルに掲げてあったユニクロの看板程度。やはり日中戦争の影響だろうか。上海のホテルがオークラ系列であったため、日本語が通じ、和食があったのが最大の日本度。

◎時速三百キロ弱で走行する高速鉄道は、非常に静かで振動なし。

東北新幹線等の技術を活用しているようだが、「のぞみ」より静か。その代わり、乗客の携帯電話での話し声が大きい。線路が平坦、真っ直ぐ、トンネルなしのためだけであらうか。技術面で非常に脅威。

◎都会に多いバイクや田舎の三輪車(作物運搬用)は電動。環境への優しさでは負けている。

取り止めのないことを書いてしまいましたが、管長猥下八十五回目訪中に同行させていただき、また気さくにお話いただき感謝・感激・驚きの連続でした。特に大相国寺、玉佛寺での熱烈歓迎ぶりから、長年、管長猥下がご尽力されてきた貢献・功績を実感いたしました。

小林老師様、佐分宗務総長様、矢野教学部長様をはじめ参加和尚様、そして在家の皆様とも交流を深めることができ、非常に有意義な日々でした。心からお礼を申し上げます。

私事ですが、二十五年前に亡くなった父は、日中戦争時に上海、北京、内地各地で軍人として勤務しておりました。その父は生前、戦後の中国を見たいと常々言っておりましたが、叶わずに他界しました。今回の訪中で、代わりにその想いを達成し、中国の現況を仏前に報告して旅は終了いたしました。

「ファインダー越しの中国」



柴田明蘭写真事務所

柴田明蘭

この度の臨済禪師一一五〇年遠諱日中合同法要に参加する為の訪中は、平成二十一年に浙江省の径山きんざんにある萬壽寺に東福寺派の訪中団に同行し記録写真を撮影して以来なので実に七年ぶりのことになります。久しぶりの海外なので旅支度の勘が鈍っていて、何をどれだけ準備して持っていけば良いのかも分からぬうちに、押入れの奥にしまい込んでいたスーツケースを引っ張りだし荷物を詰めながら思いを馳せることは、今の中国が以前に訪れた時と比べどのように変わっているかということでした。

私が初めて中国を訪れたのは、父(写真家・故柴田秋介)の助手として、今から三〇年前(前の昭和五十八年)第二次友好の翼訪中団(日中友好臨済黄檗協会主催)に、記録写真を撮影するために参加した時のことでした。そのころはまだ人民服を着た人達や空港などでは肩から銃をぶら下げた軍人があちこちで見受けられましたし、参拝や表敬訪問の為に訪れた寺院は何処も見窄らしいところが多く、中には野晒しになっていて住職さんのいないようなお寺もありました。

ところがどうでしょう。ご存知のように近年の中国の経済の発展は凄まじくその勢いには目を見張るものがあります。私もこれまでに十四、五回ほど仕事で中国を訪れまし

だが、カメラのファインダーを通して見る街の景色はその度にどんどん姿を変え、人々の暮らしぶりも大きく変わっていきました。



宇宙的?! デザインの建築物



幾何学模様のように乱立するマンション群

そして、今回の久しぶりの中国の旅でも更なる変貌ぶりを行く先々で目のあたりにすることになるのです。例えば、臨濟禪師の一一五〇年遠諱法要が地元の大勢のボランティアの人達の協力のもと厳肅かつ盛大に執り行なわれたのですが、その臨濟寺ですら当時は朽ち果てかけた仏塔以外は周りに何も無いような所でしたし、日本では見ることの出来ないような超高層ビルのデザインや恐ろしい数の高層マンションが乱立していました。高速道路や高速鉄道の大幅な開通などで国内の移動時間も格段に早くなり、街に溢れていた中国のシンボリックな存在でもあった自転車もその殆どがバイクのような形の電気自転車に姿を変えていました。

最終日に訪れた上海の玉佛寺では高層マンションが借景になっているお堂の風景に



街中に溢れる電気自転車



超高層ビルを借景に佇む玉佛寺(上海)

は嘩然とし、その後訪れた寺院は皆大きく綺麗に再建されたくさん人が集まる観光地になっていました。

しかし、急変貌を遂げてきた中国の何もかもが変わったわけではありませんでした。

石家荘から開封市の大相国寺へ向かう途中に昼食を取るために立ち寄ったレストランでの出来事なのですが、食事を終えて帰ろうしていると、同じお店で食事をしていたある中国人の一家と店の前で出くわしました。そこでお祖父さんが嬉しそうにお孫さんを抱っこしてあやしている姿を見かけ、その睦ましい光景にとっさに持っていたカメラを向けると「うちの孫可愛いだろう!」と言わんばかりにもっと写真を撮れと私にお孫さんの

顔がよく見えるようこちらに振り向かせてくれました。

そのお孫さんとお祖父さんの笑顔がカメラのファインダー越しに見ながら、私も夢中にシャッターを押していると、表向きはどんどん変わろうとも、この国の街に溢れる多くの人々が放つ大陸の活気とそこに暮らす人々の変わらぬ素朴な笑顔は今も昔も何にも変わっていないのだなあと実感して、嬉しくも懐かしいそんな気持ちになり、再びこの国へカメラを持って戻って来たいと強く心に思うのでした。



いつの時代もかわいい孫を自慢するのは万国共通

第二十五回 相国会本部研修会 日程

10月26日(水)

10月27日(木)

13時	登山、諸説明(承天閣美術館2階講堂)	6時	開静(起床) 洗顔、寝具片付け等
13時30分	開講式(承天閣美術館2階講堂)	6時15分	朝課(承天閣2階講堂)
	①般若心経・消災呪・本尊回向		般若心経・消災呪・本尊回向
	大悲呪・開山回向		大悲呪・開山回向・四弘誓願文
	②佐分宗務総長挨拶	6時30分	坐禅(20分×2回 休憩有り)
	③抹茶茶礼(抹茶・鎌餅)	7時15分	粥座(朝食)、粥座後書院掃除・片付け
	④四弘誓願文	8時	閉講式(承天閣美術館2階講堂)
	有馬管長猥下御垂訓(終了後 記念撮影)		①大悲呪・開山回向
14時15分	坐禅(30分×2回 イス坐禅可 休憩有り)		②宗務総長挨拶
15時30分	承天閣美術館2階講堂		③修了証授与
	講演		④四弘誓願文
	講師 京都観光文化を考える会 都草	8時30分	課外研修出発
	理事 中江好喜氏	9時	將軍塚 青龍殿拜観(山科区)
17時30分	『いま「臨濟禅」と「仏像」がおもしろい』	10時	聖護院門跡 特別拜観(左京区聖護院)
	本山出発		宮城泰年門主猥下 法話拜聴と境内拜観
18時	薬石(懇親会) 左京区内にて	12時30分	齋座(昼食) 聖護院門前にて
21時	開浴(入浴)		順次解散
22時	就寝(大書院)		

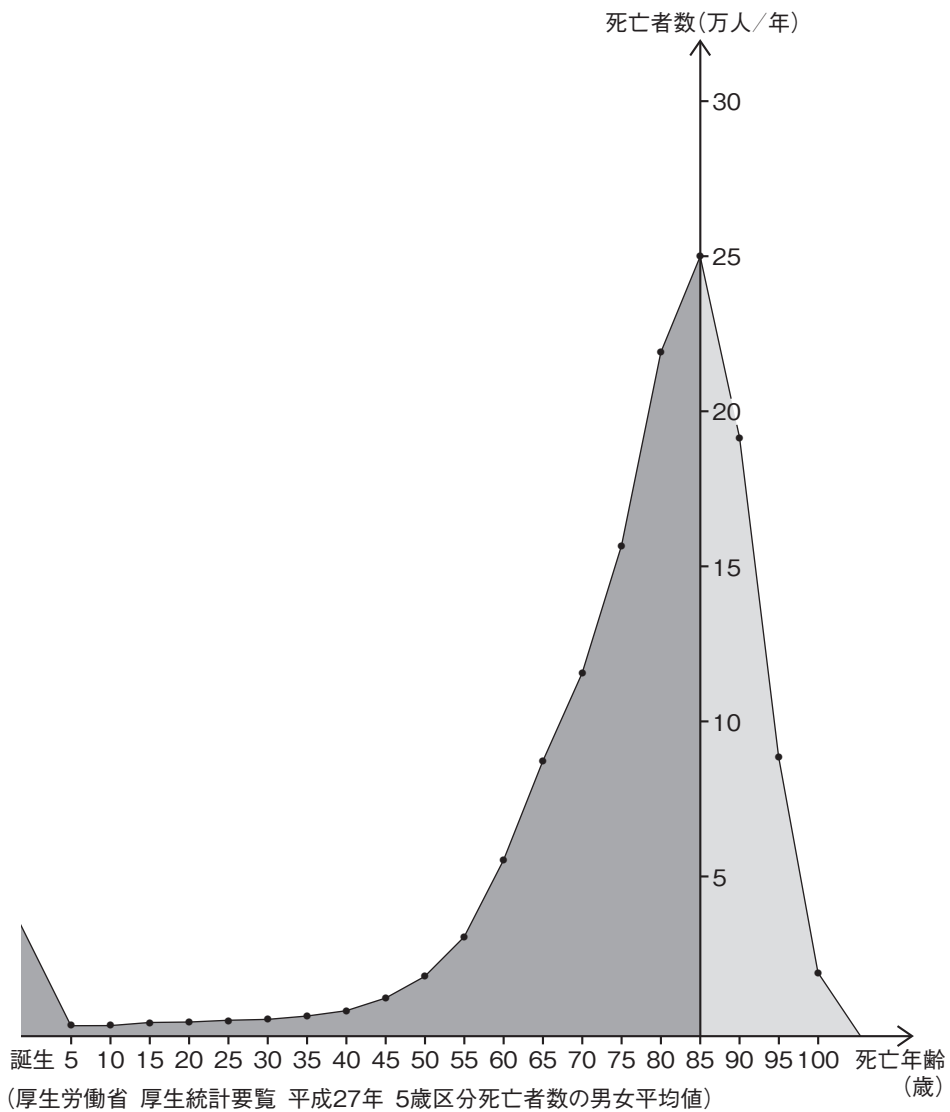
第二十五回 相国会本部研修会 参加者(教区順・敬称略)

教区	住所	分会名 (菩提寺)	参加者
第一教区	京都市	眞如寺	山内勝孝
第二教区	滋賀県草津市	長遠寺	上野隆男
第二教区	京都市	長遠寺	平野安彦
第二教区	京都市	大應寺	波多野外茂治
第二教区	京都市	智蔵院	山下 勉
第二教区	京都府亀岡市	福性寺	清水一郎
第二教区	京都府亀岡市	大雲寺	平井國晴
第三教区	大阪府宝塚市	天正寺	谷川承信
第三教区	兵庫県丹波市	少林寺	岸部優男
第四教区	福井県高浜町	正善寺	松岡柁貴
第四教区	福井県高浜町	妙祐寺	常畑 一夫
第四教区	福井県高浜町	圓福寺	北原 浩
第四教区	福井県高浜町	壽奎寺	米津正訓
第五教区	島根県出雲市	靈雲寺	原 泰男
第五教区	島根県出雲市	萬福寺	鐘築 薫
第五教区	島根県出雲市	本誓寺	陰山清二

教区	住所	分会名 (菩提寺)	参加者
第五教区	島根県出雲市	西光寺	飯塚節夫
第五教区	島根県出雲市	西光寺	高木幹雄
第五教区	島根県出雲市	富田寺	陰山圭司
第五教区	島根県出雲市	富田寺	高橋義則
第五教区	島根県出雲市	保壽寺	佐藤慶治

引率和尚	第二教区	第二教区	第四教区
	竹林寺住職	牛江宗道	圓福寺住職
	福性寺住職	吉田弘道	田中太眞





『人生、男八十二年、女八十七年の時代。』
『退職後の二十年こそ充実させて、心豊かに趣味に打ち込み、安らかな老いを迎えたい！』
と、願っている方々よ。

寿命の分布曲線は、左頁の山の如し。
平均寿命が定まる為に、八十五歳よりも若くして死亡している人間が、2/3以上であることを、グラフは如実に現実、
真実、事実を示している。

佛道定款
— YOUR GUIDE FOR DEATH EDUCATION —

第五条 平均寿命



平均寿命程、何の頼りにもならないものはない。
平均寿命程、全く当てにならないものはない。

盆・正月・大晦日として死人の出ない家はなく、三百六十五日、死人の出ない日は一日もなし。

長寿を願う方方よ。

誰が、あなたを、「平均年齢迄は命を保障します。」

と、約束してくれようか。

「仏法」——老少不定——

「死んで行くのは老人からであって、少年少女、青年壮年は元気で健康であるから、死ぬことなどあり得ない訳で、何も心配する必要はない。」という妄想を厳しく戒める教えである。何歳といえども、明日の露の命は落ち易く、消え易しの教えである。今日出来る仕事は今日に済ませ、今日今時ばかりの無事を大切に、大事に行じてゆくこと、これが本当に——老少不定——の教えに随う仏教徒の姿でなければならぬ。

相国寺の庭園

第一回

開山堂庭園の維持管理

植昭 長岡造園 長岡秀晃

「本来無一物」の境地を表現しているのが一般的な禅宗の諸堂の前庭において、相国寺の開山堂庭園は異色の存在です。

この開山堂庭園においては本来白砂などで構成されるシンプルな前庭と、樹木・築山・景石などから成る裏庭のその両方がひとつの庭園に備わっているのです。

また、白砂の部分と樹木のある部分の間は水路になっていきます。この水路に昔は水が流れており、上賀茂から御所への御用水として使用されていきました。水が止まり、枯山水となった現在でも雨が降ると少し水がたまり、当時の様子を垣間見ることができます。

今回は、そんな開山堂庭園の樹木の手入れについて解説させていただきます。

開山堂庭園には様々な樹木が植わっていますが、建物から観賞する際の主要な樹木は黒松・

赤松・モミジです。

白砂の中にあり、ひと際目立っているのが黒松です。毎年冬に葉むしりと呼ばれる手入れを行っています。絡んでいる枝や木のバランスを崩す枝、垂れ下がった枝などを切った後で前年の古い葉と当年の葉を決まった枚数を残してむしります。伸びた枝、垂れた枝を残して大きく育てるということはせずに、できる限り前年の大きさに戻してやるという剪定を行っています。特にこの黒松は現時点で十分な風格があり、白砂の中でしっかりと主張していますので大きさを維持してやるのが最善と考えています。雄松とも呼ばれる黒松らしく、かっちりとした枝ぶりの仕立てにしています。

一方、赤松の剪定は黒松と同じような枝を外していくのですが、葉むしりはしていません。



開山堂クロマツ全景



剪定風景

また、黒松ほど細かく鋏を入れることはせず、比較的大きな枝を外してすっきりとした見た目になるように心がけています。前述した黒松に対して赤松は雌松と呼ばれており、枝ぶりも黒松とは対照的に柔らかく優しい仕立てにしています。

また、幹を手ぼうきでこすり古い樹皮を落とすしてやります。赤松特有の手入れ方法なのですが、これをする事によって幹が赤茶色のもも美しい色になり、加えて古い樹皮の中への害虫の侵入も防ぐことができます。黒松・赤松に共通して言えることですが、松ぼっくりはすべ取るようにしています。残したままにしておくと、そちらに栄養分を取られて樹勢が落ちてしまいます。これを読まれた方が松の手入れをされる場合は、是非取ってやってください。

モミジの剪定は、自然な樹形に見えることを重要視して行っています。建物正面のモミジは列植されており、大きく育てすぎると隣同士の枝が絡み合っ壁のようになり、奥行きがない庭になってしまいます。また、長い間手を入れずに置いておくと懐の枝が枯れてしまい、自然な樹形で切り縮めることが難しくなってしまう。樹木同士を喧嘩させないためにも、数年に一度ある程度の大きさになるように切り縮めてバランスを整えています。

長い時を経て成熟してきた開山堂庭園、樹木を成長させるだけでなく、現状を維持することに重きを置いた管理を行っています。庭園を生かすために、実は庭師が工夫を凝らした手入れをしていることを拝観の際に思い出して頂けたら幸いです。



開山堂モミジ



剪定風景

「ほんものを追い求める」

演劇塾 長田学舎 河田洋志



昨年十月中旬、相国寺「般若林」のお庭は、秋晴れの温かい日差しに包まれておりました。そんな中、私どもおさだ塾の秋の自主公演『町かどの藝能』その四二を上演させていただきました。

いつもは静かなお庭も、この日はばかりはお客様と芸商人の声で一杯でした。

『町かどの藝能』は、おさだ塾を代表する演劇です。観客完全参加の終日野外劇と申しまして、午前十一時から午後四時迄続く演劇です。

お客様が、一步木戸をくぐられますと、そこは江戸時代の京の都（あきんど）―芸商人（芸で先ずはお客様に楽しんでいただいた後に、商いをする商人）が、お客様を笑顔一杯でお迎えます。―そこでは、芸商人が修行をしている珠屋の、年に一度の芸能祭りが開かれています。

般若林の庭一面に紅白幕が張られ、色とりどりの幟が立てられています。その中で、色々な芸商人が、美しくかざった屋台を置いて商いをしています―千代紙うり、小間物や、大福引、河童の小太郎の見世物小屋、栗うり、鳥笛うり、けん玉うり等々―それぞれに芸商人が唄芸、技芸、話芸を披露してお客様とお話しをして心を通わせていきます。

刻が来ますと、奥の広場に設けられた舞台の上で大太鼓の心をゆさぶ



呼びこみ太鼓

るような音が響きわたります。日に三回ある舞台のはじまりです。日頃一人ではご披露出来ないとおきの芸能、何時もご披露しているものに新たな工夫を凝らした芸能を舞台で見えていただくのです。

― 操り人形、玉すだれ、あほだら経、等々 ―



玉すだれ



大福引き

『町かどの藝能』の自主公演の設定は、年に一度、芸商人が一堂に会して日頃お世話になっている街のお客様に、感謝をこめて開くお祭りなのです。日頃、芸商人は一人で街角へ振り売りの商いに行きます。そこで、お客様に商品を買っていただいて、其のお陰で芸商人として暮らしているのです。

舞台以外でも、舞台前の広場では、粟もちの曲つきやお客様と一緒に

踊る町かど数え唄等もあり、アツという間に時間
間は過ぎていきます。そして最後は、締めくくり
の納めの舞台で、お別れ甚句を唄って終わります。
―晴天ならば丁度西の空は美しい茜色に染め
られています―

〱空は茜の夕焼け小焼け時へ急ぐ親子鳥

〱紅に藍白浅黄の幟夕風受けてはたはたと―

(中略)

〱今日の御縁のこのお付き合い厚く御礼申し
ます

〱どうぞ皆様何時いつ迄もお健やかにておわ
しませ

〱皆様様の御身の上の幸せ深く祈りつつ

〱又のおめもじお誓い申しこれにてお別れい
たします

これにてお別れいたします―

芸商人たちがお客様との御縁に感謝し、お客様とお別れを惜しんで唄



とんがらし売り

うこの甚句が「どうしても聞きたくて」「この甚句を聞かないと一年が終
わらない」と言ってくださるお客様も沢山いてくださいます。

いろんな演劇がありますが、『町かどの藝能』は、お客様と一緒にドラ
マを生みだしていく不思議な演劇です。言えば四二回かけて積み重ね
てきたドラマなのです。

「この日の為にこのがま口に貯金をして来るの。一杯買い物して、
けん玉の唄覚えて帰るの。ほんと今日は幸せやわ」

「わたしの人生の中で、楽しくうれい日が三日あるとしたら、今日が、
そのうちの一日になりました」

「十年ぶりに姫路からやって来た。七十歳の時に来て、鳥笛を買って、
ウグイスの鳴き方を教わって、いろんな処で鳴いてんのやで。さつき新
しい鳥の鳴き方を教わって来た。いい歳やし、遠いからもう来れんかも
しれんけど、鳥の声を良く聞いて稽古するわ。ありがとう」

「弥七さん、まだ粟もちついててびっくりしたわ。長い事来てへんかつ
たから、もう粟もちについてへんと思ってた。けど元気で何よりやね」

ほんとに有難い言葉ばかりです。そんなお客様に支えられ無事公演を終えさせていただきました。

『町かどの藝能』は、劇団創立者の長田純先生が、先生の門下の碧川萌子先生と粟津もと先生と共にうみだし、育てられてきたものです。

芸商人は、いかに今日お客様に満足していただけるか—その為に全精魂をかたむけた。

満足していただける商品を自分でつくり、自分の脚で良い商品を探し、それをお客様に届けた。

芸商人として少しでもお客様に喜んでいただく為に必死で芸を磨いた。俳優として、そんな芸商人に、自分の心と身体で生きる事—それしかない。

先生方は、まず、江戸時代の京の都の人に生きること—その時代の人を、心と身体で感じられることを求められました。草鞋履きで歩き、着物での生活をし、来る日も来る日も江戸時代の人の生活を心と身体で感

じる稽古を重ねていきました。

その次が、その時代の商人に生きること—その時代の商人がしただらう生活を実際にやってみるのです—心から「ありがとうございます」と言えるまでにござりました」と言えるまで

「演劇は創作ではあるけれど、そこにほんものが無ければ、お客様に感動を差し上げることができない。どんくさくてもいいから、ほんものを追い求める事」と、先生方は教え導いてくださいました。

『町かどの藝能』は、今年で初演以来、四三年目、おさだ塾は、創立六六年を迎えます。



粟もちの曲づき

長田純先生は、昭和六十一年になくなられました。しかし、その後を引き継がれた碧川萌子先生、粟津もと先生が、ほんものの演劇を追い求めるおさだ塾の精神を率先して大切に、私たちの指針となつて下さっており、おさだ塾の精神を率い続けて下さっています。

歴史ある相国寺『般若林』に置いていただける事に、誇りと感謝の心を持って、これからも、歩んで参ります。

写真：『町かどの藝能』公演より

おさだ塾自主公演のお知らせ

『春の小さな劇場』

公演日／平成二十九年三月三十一日(金)・四月一日(土)・二日(日)

問い合わせ先／おさだ塾 電話・FAX(〇七五)二一〇二三八

於・般若林(相国寺北門前町)

※おさだ塾の自主公演は、秋の「町かどの藝能」と「春の小さな劇場」です。春の劇場は、今回で30回目になります。秋の公演の舞台は般若林のお庭ですが、春の公演の舞台は、おさだ塾の稽古場です。小さな劇場ですが、俳優の息遣いを感じられる、臨場感あふれる劇場です。内容は、誰もが無条件で楽しめ、そして清潔な感動を通して、その余韻の中から何かを考えさせられる演劇を理想とするおさだ塾のオリジナルの現代劇です。

本山だより (平成二十八年八月〜十一月)

○第六十三回 暁天講座

八月二日、三日の二日間、大方丈ならびに大書院において、第六十三回暁天講座を開催した。両日とも五時半受付開始、六時より坐禅、六時四十五分より講演。その後、大書院では粥座があり、参加者一同作法に従つてお粥

をいただいた。

今年の講師は、初日は有馬管長が「白隠禅師」、二日目は小林老大師が「鈴木大拙没後五十年 有縁無縁あれこれ」という演題でそれぞれお話いただいた。両日とも多数の参加者があり、大変盛況であった。



有馬管長法話



小林老大師法話



方丈での坐禅



第63回 相国寺暁天講座ポスター



粥座で食事五観文を読む

○臨黄合議所理事会

九月二日、臨黄合議所理事会が南禅寺において開催され、佐分宗務総長が出席した。

○臨濟禪師一一五〇年遠諱記念訪中団

巻頭・巻末カラーや報告記事のように、九月六日から十日まで相国寺派は有馬管長を筆頭に僧侶十二名と相国寺松井八束穂総代、第四教区伊藤彰相国会会長、相国寺御用達相樂社矢口恵三会長ほか在家九名の計二十一名の訪中団を組み、宗祖臨濟禪師一一五〇年遠諱記念の「日中合同法要」に臨濟宗黄檗宗連合各派合議所(臨黄合議所)の一団として参加した。詳細は、各記事を参照されたい。

また、今回国内外で企画実行された一連の臨濟禪師遠諱事業については、臨黄合議所の事務局諸氏がその事務手続きの一切を行い、中川弘道師(相国寺派第二教区大雲寺住職・禅文化研究所事務局長)がその中心にあったこと、訪中の間に関しては、JT B西日本団

体旅行各位にお世話になったことを特記しておく。

(巻頭カラー2ページ・22ページを参照)

○同宗連第一連絡会

九月十二日、京都市下京区の本願寺(浄土真宗)で、二十八年度第二回『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議の第一連絡会が開催され、矢野教学部長、江上教学部員が出席した。

○室町小学校六年生坐禅会

九月十五日、室町小学校(相国寺が属する小学校区)の六年生児童四十四名と校長先生、担任教諭が訪れ、地元の歴史学習と坐禅を体験した。はじめに承天閣美術館二階講堂で矢野教学部長より相国寺の歴史解説を聞き、続いて江上部員指導のもと書院で坐禅をした。初体験の児童が足の痛みをこらえる場面も見られたが、多くの児童が警策を受けた。坐禅後は、法堂と方丈を順に拝観した。



室町小学校六年生の坐禅体験



矢野教学部長による相国寺歴史解説

○花園大学「大学撮心」

九月十六日、臨済宗の宗門大学である花園大学（京都市中京区）の年間行事の一つである「大学撮心」が本山方丈を会場に行われ、大学生ら九十六名が登山し、大学担当者による坐禅指導を受けたのち、相国僧堂小林老大師による法話を拝聴し、法堂の拝観をした。

○二十八年度 秋期特別拝観

九月二十五日より平成二十八年度の秋期特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月十五日まで一般に公開された。昨年は紅葉も美しく、伊藤若冲生誕三〇〇年も重なり、承天閣美術館と共に連日多数の拝観参拝があった。二十九年度春期特別拝観は、三月二十四日から六月四日まで、公開場所は法堂、方丈、宣明（浴室）の予定である。

○第二寺務棟起工式

十月五日、初祖達磨忌の法要後に本山庫裏

（香積院）に隣接する寺務棟の改築増床工事の起工式の諷経がなされた。竣工は本年八月末の予定である。

○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日（宿忌）、二十一日（半斎）の両日にわたり厳修され、第四教区若狭より一〇四名（寺院九名を含む）、第五教区出雲より三十六名（同寺院一名）、第六教区鹿児島より二十四名（同寺院一名）の相国会会員の団体参拝があった。

二十一日は、九時より法堂において韜光室老大師導師のもと献粥諷経にはじまり、諸堂焼香、奠供十八拝が行われ、引き続き檀信徒、総代、本派寺院の順に入堂し、管長導師のもと出班焼香に引き続き楞嚴呪行導が厳修された。続いて、開山塔（開山堂開山像真前）にて諷経がなされ終了した。また、本年は庫裏寺務棟の改修工事のために、斎席は用意されなかった。

相国会会員他列席者による「般若心経」諷誦を法要後に教学部で行い、相国寺総代、各相国会会長、総代各氏に焼香をしていただいた。管長香語は左の如し。

開山忌毎歳忌香語

聖代今祇堯舜天 聖代今祇堯舜の天
焚香祝讃萬期年 香を焚いて祝讃す、萬期の年
恰如秋色無高下 恰も秋色の如し、高下無し
雨露恩光乃老禪 雨露恩光、乃老の禪
頼底九拜
定中昭鑑

○第二十五回 相国会本部研修会

十月二十六より二十七日まで、第二十五回相国会本部研修会が行われた。同研修会は二年に一度の開催で、今回は第一教区二名、第二教区八名（引率和尚 竹林寺牛江宗道住職・福性寺吉田弘道住職）、第三教区二名、第四教区五名（引率和尚 圓福寺田中太真住職）、第五教

り、無事散会となった。今回の研修会は、平成三十年に開催の予定である。

（巻末カラー114ページ・50ページを参照）

○天龍寺開山忌

十月三十日、京都市右京区の本山天龍寺において開山夢窓国師毎歳忌半斎法要が厳修され、相国寺より佐分宗務総長以下計十名が出頭した。

○第三十六回 寺院婦人研修会

十一月十一、十二日の両日、第三十六回相国寺派寺院婦人研修会が行われた。今回の研修会は、本山相国寺ではなく一昨年落慶した相国寺東京別院（東京都港区南青山）の方丈・客殿が研修会場となった。

初日は全国より参集後、国会議事堂の参議院参観をして、宿泊先のホテルにて懇親会、二日目は東京別院に移動し、施設の見学をした。この日は有馬管長の東京維摩会の提唱日でも

区八名の総勢で二十四名が参加した。開講式、諷経、佐分総長挨拶に続き、管長猊下による垂示があり、教学部指導のもと坐禅を行った。その後、中江好喜氏（京都観光文化を考える会「都草」理事・SKYガイド）を講師に招き、「いま『臨濟禅』と『仏像』がおもしろい」という題で寺社仏閣の建築やお像を多方面から見るといふ視点を養う講義をたまわり、参加者には大変好評であった。

翌日は起床後、朝課（勤行）、坐禅、粥座、閉講式を行った。またこの日は天台宗青蓮院門跡の飛地境内である將軍塚青龍殿（京都市東山区）を訪問し、祀られている国宝「青不動（複製画）」を拝観したのち、大舞台から京都市内を一望した。続いて本山修験宗総本山の聖護院門跡（京都市左京区）に移動し、宮城泰年門主から修験道、山岳信仰についてのご法話を拝聴した後、宮城門主直々に境内の本堂、宸殿、書院のご案内下さり、最後には法螺貝を吹いていただいた。その後斎座（昼食）をと



東京別院玄関前にて



有馬管長より別院の説明を受ける寺庭婦人

あったことから、研修生一同も参加者と共に
方丈にて『寒山詩』提唱を拝聴し、坐禅をした。
今回は以下の教区より次の十六名が参加
した。

◇参加者名簿(教区・台番順)

- 第一教区 澤 万里子・澤 洋子(林光院)
- 山木佐恵子(普廣院)
- 草場容子(慈雲院)
- 佐分厚子・佐分真希(豊光寺)
- 第二教区 和田真弓(是心寺)
- 第四教区 石崎典子(海岸寺)
- 五十嵐多賀子(善應寺)
- 第六教区 矢野八恵子・矢野志保(南洲寺)
- 芝原由紀子・芝原聖子(感應寺)
- 近藤洋子(良福寺)
- 松下知子(永徳寺)
- 田中富士子(龍源寺)

坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を
対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。
第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、
それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。
維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の
弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会場：相国寺 本山大書院

時間：午前九時より十一時迄

内容：坐禅(九時～十時半)

法話(十時半～十一時)

注意：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前
日までに電話連絡をお願いします。(電話〇七五―二三一―〇三〇―一)
尚、満員の場合はやむなく御断りする場合がございますので、あらか
じめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。

威儀.. 服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

東京維摩会 ゆいまかい

平成二十九年の開催日は左記の通りです。

会場.. 相国寺東京別院 方丈・客殿

有馬管長坐禅会

一月十四日(土)、二月十一日(土)、三月十一日(土)、四月十五日(土)、五月十三日(土)、六月十日(土)、七月十五日(土)、九月九日(土)、十月十四日(土)、十一月十一日(土)、十二月九日(土) (八月は休会です)
時間.. 午前十時半より正午頃迄
内容.. 『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼
威儀.. 服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

小林老師坐禅会

一月七日(土)、二月四日(土)、三月二十六日(日)、四月一日(土)、五月二十七日(土)、六月十八日(日)、七月二十二日(土)、八月五日(土)、

九月十七日(日)、十月二十八日(土)、十一月十八日(土)、十二月十六日(土)

時間.. 午後一時より二時半迄

内容.. 『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

威儀.. 袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材(デニムなど)は避けて下さい。

※開催日を変更する場合があります。最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧ください。相国寺東京別院(電話〇三三四〇〇五八五八)までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場 方丈・客殿 玄関



TEL 03-3400-5858
会場: 方丈・客殿
〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○相国寺塔頭光源院行者講大峰山入峰、
高野山金剛峯寺参拝

毎年六月に大峰山に入峰修行する相国寺信心教社第一号連山組にて、光源院住職荒木元悦和尚は、住職就任以来昨年六月入峰で四十九回の入峰修行を無事終えられた。

平成二十八年六月十日午前九時より、光源院行者堂において前行を行い、道中安全、家内安全の祈願を役員及び今回で七回目入峰による、院号授与者の他多数の参拝者を行う。翌日十一日早朝午前六時、堀川今出川を貸切バス二台で新緑の大和路を一路奈良県吉野郡天川村の洞川（たががわ）に向かう。十時宿泊所になる洞川西村清五郎指定旅館に到着、早めの昼食手弁当を取り、直ちに入峰に向かう。晴天にめぐまれ、入峰日和で

新客を先頭に山上に向かう。最初の行場「西の硯」も無事に終え、新客は裏行場へ、他の者は本堂に向かう。新客の行を終え全員そろった所で修行を行う。参詣後各自全員下山し、夕食後旅館にて宿泊する。

翌十二日は午前五時半起床、六時に龍泉寺行場にて新客と共に般若心経を唱えながら水行を行う。終つて西村旅館にて朝食をとり、全員龍泉寺へ参拝後洞川を出発する。

真言密教の根本道場である高野山に向かう。高野山塔頭の宿坊、増福院にて昼食し休憩後金堂、金剛峯寺に参拝、奥の院において全員にて般若心経を唱和し、家内安全祈願の後、一路泉南、犬鳴グランドホテル紀泉閣に向かう。休憩の後ホテルにて小宴。午後六時三十分同所出発、京都に向かい、午後八時十五分堀川今出川に無事全員帰着、万歳三唱して目出度く解散した。

第二教区

○相国会第二教区支部総会

六月二十五日、相国会支部総会が長遠寺（京都市上京区）に於いて開催され、二十六名が出席した。

十一時より本堂にて全員で諷経をした後、記念撮影をして総会に入った。今回は特別な議題はなく、一昨年秋に落慶した相国寺東京別院の方丈・客殿を紹介したり、子供研修会への参加を呼び掛けた。その後、場所を移し、懇親会のひと時を楽しく過した。



大峰山 高野山 平成28年6月11日入峰 連山組 56名



長遠寺本堂にて

第四教区

○若狭相国会 役員会

六月二十二日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。本年度行事等について協議した。

○宗務支所 支所会

七月五日、宗務支所支所会を正善寺に於いて開催した。お盆行事調整及び本山開山忌団参について協議した。

○宗務支所 臨濟禪師一五〇年遠諱日中合同法要

九月六日～十日、相国会会員二名、住職一名が参加し、中国石家荘の臨濟寺での記念法要や式典、また相国寺所縁の大相国寺、玉佛寺なども参拝した。

○宗務支所 支所会

九月二十六日、宗務支所支所会を正善寺に

於いて開催した。本山開山忌団参の参加者集計等協議した。

○若狭相国会 役員会

十月十二日、若狭相国会役員会を正善寺に於いて開催した。

○宗務支所 開山毎歳忌団参

十月二十一日、相国会会員一〇一名、住職七名、合計一〇八名参加。本山法要参拝後、宇治平等院鳳凰堂を参拝した。

○宗務支所 支所会

十月二十五日、宗務支所支所会を正善寺に於いて開催した。第四教区支所会研修旅行及び平成二十九年巡教等協議した。

○若狭相国会 第二十五回相国会本部研修会

十月二十六日～二十七日、相国会会員四名、住職一名が参加し、本山にて坐禅指導を受け、

講義の拝聴など実りある研鑽を積んだ。

第五教区

○出雲相国寺会親子坐禅会

七月二十八日に「夏休み親子坐禅会」を東光寺で開催した。親子四十八名、世話二十一名、総勢六十九名の参加があった。

ラジオ体操を行った後、富田寺加藤文保和尚、西光院金森大融和尚の指導のもと坐禅。坐禅終了の後、坐禅和讃を唱和し、参加証が子供に渡された。その後、体操(笑いヨガ)の指導があり、大きな声で笑いひと時を過ごした。

○本山開山忌団参拝

例年通り、大本山相国寺開山忌に合わせ、団参拝を行った。今回の参加者は三十七名。二十日は宇治の平等院鳳凰堂と城南宮(京都市伏見区)を見学し、京都市内で宿泊した。



「夏休み親子坐禅会」で坐禅をする児童たち

二十一日は、本山の法堂で開山忌に出席した後、慈照寺(銀閣寺)、興聖寺(宇治市・曹洞宗)を拝観した。

銀閣寺を出たのち、鳥取地震が発生して出雲地方も震度四を観測し、一行は非常に心配であったが、地震の影響はないと言うことで安心して帰路に着いた。

第六教区

○本山開山忌参拝(感應寺)

第六教区感應寺(芝原祥三住職)は、十月二十一日御本山開山忌に二十四名にて参拝いたしました。

感應寺では檀信徒に呼びかけて、古寺めぐり旅行を永年続けておりますが、十年に一度開山忌参拝を計画し、今回で五度目になるようです。今回は、一日目に薩摩藩とゆかりの深い東福寺山内即宗院(京都市東山区)参拝、

妙心寺山内大心院(同右京区)の宿坊泊、二日目に鹿苑寺参拝と比叡山巡りを行いました。三日目、今回の最大の目的である本山開山忌の荘厳な雰囲気の中で法堂にて般若心経を唱えた経験は、特に代えがたいものとなったようです。法要終了後は、盛況の承天閣美術館にて若冲展をじっくりと拝観することができ、参列者一同仏縁深き旅行を満喫された様子で帰路につきました。

交通の便が急速に発展しつつも、まだまだ南九州から京都へ参拝する機会に限られています。その中で当教区各寺院がここ数年開山忌参拝を重ねており、檀信徒の皆様と御本山との心の距離をすこしでも近づけられたらと思う所存です。



相国寺開山忌に参拝した第五教区出雲相国会の参加者



相国寺開山忌に参拝した第六教区感應寺檀信徒

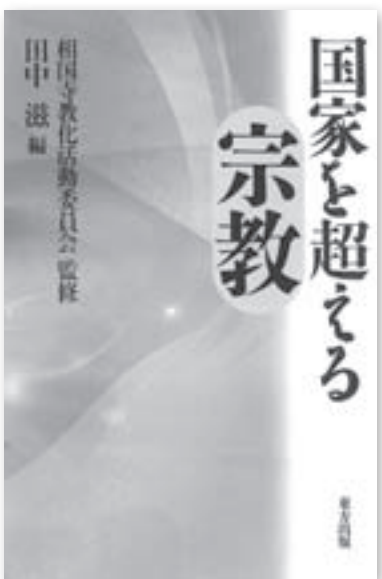
【新刊のご案内】

本誌前号でも予告しました二種類の本が、相次いで出版されることになりました。各書店、インターネット等でお求めいただけます。

『国家を超える宗教』

東方出版 本編 三二〇ページ
 平成二十八年十二月十五日発刊
 四六判 上製本

定価 二、二〇〇円(税別)



教化活動委員会が出版する、洗建^{あま}氏の座談『国家を超える宗教』は、平成二十八年十二月、東方出版より発売となりました。出版が予定より遅れましたが、その分、現在多くの著作を精力的に発表されている佐藤^{さとう}優氏との座談会も合わせて掲載することができ、充実した内容になりました。

◆主な内容(詳細な内容は、相国寺派ホームページ「活動」・「書籍案内」に掲載いたします)

目次

巻頭に寄せて 臨濟宗相国寺派管長 有馬頼底

- 1 宗務課という役所
 - 2 「信教の自由」はいつどこで生まれたか
 - 3 紆余曲折の神道国教化の道程
 - 4 国家神道体制と「神社非宗教論」
 - 5 明治期仏教史——仏教教団の近代化
 - 6 国家神道体制下の公認宗教・非公認宗教
 - 7 国家神道体制の崩壊と宗教法人法の成立
 - 8 古都税問題——宗教のシンボル性
 - 9 宗教法人法「改正」問題
 - 10 宗教と公益性——横行する新自由主義的解釈
 - 11 宗教法人と税金
 - 12 宗教者への提言
- 附論 「外務省のラスプーチン」がみた国家と宗教——佐藤優氏を囲んで

解題〈宗教と国家〉を読み解く

田中 滋

あとがき

洗 建

終わりに 相国寺教化活動委員会委員長 佐分宗順

本書は平成二十六年七月から二十七年二月にかけて、大本山相国寺で行った計八回の座談会を基に、編集構成したものです。

◆座談会 主な出席者

洗 建 駒澤大学名誉教授(宗教学)
田中 滋 龍谷大学教授(社会学)
田中 治 同志社大学教授(税法・財政法)
佐分宗順 臨済宗相国寺派宗務総長
長沢香静 京都仏教会事務局長
藤田和敏 相国寺史編纂室研究員(日本史)
津村恵史 (株)中外日報社論説委員長・東京本社代表

※佐藤 優氏を囲んでの附論は、平成二十八年三月二十二日に相国寺東京別院で収録したものです。

『古都税の証言』

—京都の拝観寺院をめぐる問題—

丸善出版 本編二二六ページ
四六判 並製本

定価 一、八〇〇円(税別)

京都仏教会編による『古都税の証言—京都の拝観寺院をめぐる問題—』は平成二十九年一月に丸善出版より発売となります。



◆主な内容

目次

序言

一 古都税問題・景観問題をめぐる経緯

1 古都税問題

2 景観問題

二 関係者インタビュー

1 奥野康夫氏(元京都市助役)

2 高木壽一氏(元京都市副市長)

- 3 榎本頼兼氏(前京都市長)
- 4 瀬川恒彦氏(元朝日新聞記者)
- 5 西山正彦氏(不動産会社「ペキシム」(旧「三協西山」)元社長)
- 6 田中博武氏(清水門前会会長)
- 7 鶴飼泉道師(元京都仏教会事務局長・極楽寺住職)
- 8 五十嵐隆明師(総本山永観堂禅林寺第八八世法主)
- 9 大西真興師(京都仏教会理事・清水寺執事長)
- 10 安井攸爾師(京都仏教会理事・蓮華寺住職)
- 11 佐分宗順師(京都仏教会理事・臨濟宗相国寺派宗務総長)
- 12 有馬頼底師(京都仏教会理事長・臨濟宗相国寺派管長)

三 論考

- 1 拝観行為の宗教的意義 洗 建(駒澤大学名誉教授)
 - 2 古都税問題の税法学的考察 田中 治(同志社大学教授)
 - 3 古都税問題の社会学的考察 田中 滋(龍谷大学教授)
- あとがき
- 古都税問題・景観問題関係年表

この二冊の本は鹿苑寺、慈照寺、その本山である相国寺が古都税問題以来、京都仏教会とともに繰り広げてきた運動と、その思想的、理論的支柱として学んできた、宗教と国家のあり方、

寺院のあり方、僧侶のあり方についての考察の集大成です。教化活動委員会監修の『国家を超える宗教』はその理論・思想編、一方京都仏教会の『古都税の証言』はその実践編ということになります。

【研修会報告】

「相国寺研究」

相国寺史編纂室の中井裕子研究員により「室町時代の相国寺領荘園」をテーマに、研修会が二度にわたり下記の日程で行われました。

平成二十八年

第一回 十一月十五日(火)

「相国寺領荘園の形成―足利義満期を中心に―」

第二回 十一月十八日(金)

「相国寺領荘園の運営実態について」

【次期研修会予告】

「相国寺研究」

相国寺史編纂室の藤田和敏研究員により「相国寺史料」を読む―江戸時代の相国寺と山内法系」のテーマで左記の四回の講座を予定しています。

「『相国寺史料』を読む―江戸時代の相国寺と山内法系」

平成二十九年

第一回 二月二十八日(火)

「江戸時代前期における門派の形成―西笑承兌と常徳派」

第二回 三月 七日(火)

「安土桃山期～江戸時代中期における大智派と光源院・慈照寺」

第三回 三月 十四日(火)

「江戸時代中期における相国寺山内の動向」

第四回 三月 十六日(木)

「江戸時代後期における白隠禅の浸透と門派の衰退」

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、その後質疑応答

承天閣美術館 二階 講堂に於いて開催の予定

受講希望者は、氏名、宗派または職業、住所、電話、メールアドレス明記の上、相国寺教化活動委員会までお申し込みください。相国寺ホームページからもお申し込みできます。

尚、都合によりやむを得ず日程を変更することがあります。

これまでに行った研修会の講義録をご希望の方は、一冊につき手数料一千元を添え、下記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「活動」・「書籍案内」をご覧ください。

申込先

相国寺教化活動委員会

〒六〇二-〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五-二三二-〇三〇一

FAX〇七五-二二三-三五九一

ホームページ(<http://www.shokoku-ji.jp>)

平成二十八年度(雪安居)
相国僧堂 在錫者名簿

京都 (相国) 慈雲院徒	中山真周	京都 (相国) 大通院徒	鈴木承圓
京都 (相国) 瑞春院徒	須賀集信	京都 (大徳) 大仙院徒	越中宗勇
岐阜 (妙心) 萬福寺徒	興山元卓		

相国寺史編纂室だより — 慈照寺軸物・卷子調査 —

相国寺史編纂室では、鹿苑寺・慈照寺を含めた山内塔頭の歴史史料(古文書・軸物など)について調査を進めています。今回は、慈照寺に所蔵される軸物・卷子についてご報告します。

慈照寺には、現在三五二点の軸物・卷子が所蔵されています。そのうち八五点が承天閣美術館に寄託されており、過去の展覧図録などに取り上げられています。残る二六七点について今年度編纂室で調査を行いました。その中で、特徴的な軸物・卷子についてご紹介していきます。

作成年代が確定できる軸物・卷子のなかで最も古いのは、室町幕府二代将軍である足利義詮の文和四年(一三五五)十一月七日付御判御教書(将軍の命令書)です。醍醐寺の三宝院賢俊に宛てて出されたもので、内容は慈照寺と関係がありません。箱書に、この軸物が慈照寺に伝来した理由が記されています。すなわち、もともとは西田治兵衛という人物が所蔵していたのですが、明治十七年(一八八四)に東求堂で茶会があった折りに、寄附を受けて什物になったとされているのです。この軸物の文面は、東京大学史料編纂所編集の『大日本史料』に掲載されており、早くから知られていますが、今回の調査によって伝来の経緯を把握することができました。

安土桃山時代の慈照寺住持で、五山文学の担い手として知られた惟高妙安の頂相も目を引きまします。賛から永祿十年(一五六七)の作成であることが分かります。この軸物も、大正十五年(一九二六)に五山文学研究で有名な今村觀光から慈照寺に寄贈されたものです。

この二点の軸物からは、軸の中身だけではなく、箱書からも重要な情報を得られることが分かります。実際に現物を調査することの重要性が認識できます。

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話 京都 (075) 441-0563 FAX 京都 (075) 441-0571</p>	<p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話 〇七五 八二一 三八七二</p> 
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園 (株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾 治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p>  <p>澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075)462-3915番 ファクシミリ (075)462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 TEL (075) 221-3735 FAX (075) 221-3730 http://www.yasuda-nenju.com/</p>



お茶会・式典・作品展 など
イベントのお手伝いは弊社へ

イベント設営・レンタルの京老舗
てらおかしものてん
有限会社 **テラヲ貸物店**
〒602-0029 京都市上京区室町通上立売上る室町頭町279番地の5
TEL 075-414-1464 FAX 075-414-1474
E-mail office@terao-rental.com
URL <http://www.terao-rental.com>

大本山相国寺御用達

京都市指定

有限会社 **丸水設備工業**

- 上下水道衛生設備
- ポーリング井戸
- 消火栓設備
- 庭園池の濾過設備
- お墓の雨水処理
- 設計施工

〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL (075) 462-8888(代) FAX (075) 462-8998

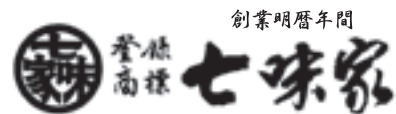


大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004



創業明暦年間
〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352
ゴヨウハンシミア
0120-540738
9:00~18:00(冬季は9:00~17:00)
<http://www.shichimiyama.co.jp/>

税理士 奥谷 昌雄
税理士 内藤 誠

〒602-8026
京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地
TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461



社内の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 **土橋電気設備**

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ 105号
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

OA機器・オフィス家具
文具・事務用機器・印刷

株式会社
京都ベストビジネス

〒604-8431 京都市中京区西ノ京原町102番地1
TEL (075) 812-7701(代)
FAX (075) 812-7707

夢のある空間づくりのパートナー



トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸
[本社] 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465
[宇治工場] 〒611-0041 京都府宇治市横島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail: fushimi@d1.dion.ne.jp

Future Active Alliance

office やまと

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで
IT環境のトータルアドバイザー

本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13
TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494
中央支社 〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺18丁目29-62
TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770
E-Mail: info@office.yamato.net

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 **表現社**

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL: 075-222-1345 / FAX: 075-222-1354
<http://www.hyogensha.net/>

式典写真、風景写真など
あらゆるニーズにおこたえます!

柴田明蘭
写真事務所

(公益社団法人) JPS 日本写真家協会 会員

☎ 090-8387-7735
FAX 075-311-9369

〒615-0057
京都市右京区嵯峨東岡町24 シェルブリュー四番 603

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 是立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 AYA 四条烏丸ビル2F
TEL.075(284)0173 FAX.075(284)0153
担当: 酒井 健次 (営業時間 9:30~17:30/土・日・祝日休業)

印刷を極め、印刷を超える



ヨシダ印刷株式会社 関西支店 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通小堀下ル三塔西洞院町572 [京滋本社] 〒921-8546 石川県金沢市御幸町19-1 TEL.076-241-2141(代)
TEL.075-252-5421(代) FAX.075-252-5423 [東京本社] 〒130-0014 東京都墨田区亀沢3-20-14 TEL.03-3626-1301(代)
URL <http://www.yoshida-p.jp/> E-mail: info@yoshida-p.co.jp [営業所・工場] 大阪・富山・江東船場



ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

大切な資産を、ご家族へ確実につなぐために。
生前贈与や万一の備えが簡単にできる三菱UFJ信託銀行の商品を
どうぞご利用ください。

元本保証・管理手数料無料

大切な家族を守る相続。
「選んで満足」のお声が増えています。



暦年贈与信託

**おくる
しあわせ**

暦年贈与信託
「おくるしあわせ」



教育資金贈与信託

**まご
よろこぶ**

教育資金贈与信託
「まごよろこぶ」



相続型信託

**ずっと
安心**

相続型信託
「ずっと安心信託」

三菱UFJ信託銀行 京都支店

お申込みはこちら 電話受付 平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)
TEL.075-211-7161 京都府京都市下京区四條通高倉東入立売中之町85

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松 紫 堂**

京都本社 / 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店 / 東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店 / 札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店 京都駅 薰々 嵐山香郷 大阪本町店 銀座店 人形町店 青山香房 札幌店

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

京都銀行

http://www.kyotobank.co.jp/



鮎割烹
たつみほし

祇園 白川 鶯橋畔
静かな佇まいに
せせらぎを聴く

〒605-0084

京都市東山区八坂新地清木町371番地4

電話 (075) 531-1184

営業時間 17:30-22:30(L.O.22:00) 定休日:水曜日



皆さまのお役に立てる、

コインパーキング。

着実に、一步一步。

キョウテク株式会社

本社

TEL 075-415-0100 FAX 075-415-0089

〒603-8143 京都市北区小山上総町10番地1キョウテク北大路ビル2F

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
法悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今葉屋町 318 番地

TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022

東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com

抹茶

全国並びに関西茶品評会 第一位
自園茶農林水産大臣賞 30回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 常光
まんねんのみどり

御薄茶 常光
じょうこう



大本山相国寺御用達

宇治 **久小山園**

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)200909
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)2230909
・ジエアービル京都伊勢丹店 地下一階
・京都高島屋店 地下一階和菓子売場
「お取り扱い」全国有名茶店・茶道具店
www.narukyu-koyamaen.co.jp

● 編集後記 ●

◇新年明けましておめでとうございます。本派ご尊宿、並びに相国会会員の皆様、関係各位におかれましては、新たな気持ちで酉年を迎えられたと存じます。『円明』第107号をお届けいたします。

昨年下半年も8月末の東北地方から北海道での集中豪雨による河川決壊被害や10月21日の鳥取地震をはじめとし、各地で台風や地震などによる天災に見舞われました。被災された関係各位におかれましては、あらためてお見舞い申し上げる次第です。

◇表紙、巻頭カラー、本文などで掲載のように「臨濟禪師1150年遠諱記念訪中団」が生まれ、昨年9月7日には中国石家荘の臨濟寺にて「日中合同法要」が厳修され、一連の関連記念行事も合わせて行われました。相国寺派からも有馬管長以下僧侶・総代・相国会会員の計21名で訪中団を組み、参加してまいりました。詳細は本文関連ページの通りですが、臨濟禪の法源を訪問し、祖師の前で改めて襟を正した次第です。また京都国立博物館に次いで10月から東京国立博物館で開催された特別展「禪一心をかたちにも」多くの来館者があり、盛況のうちに終了いたしました。

◇さて本年は、臨濟宗中興の祖とも呼ばれる江戸時代の高僧、白隠慧鶴禪師の250年の遠諱法要の年で、臨濟禪師と時と同様に諸行事が予定されております。読者の皆さんの中には、坐禅会などで読む「白隠禪師坐禅和讃」を通じて白隠禪師をご存知の方もおられましょう。

◇2年に1度開催の「相国会本部研修会」を昨年10月26日～27日に開催いたしました。おかげさまで第25回を迎え、今回も全国の各相国会支部より会員である末寺檀信徒21名のご参加があり、有意義な研修となりました。

◇小林玄徳老大師の連載「仏道定款」をはじめ、臨濟禪師遠諱記念訪中団に団員として参加し、感想文や写真をご寄稿頂きました諸氏には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、今号から「相国寺の庭園」と題した連載も始まり、興味深い内容となっておりますので、合わせてご一読ください。

◇寒さ厳しきの折から、ご自愛いただきますと共に、各位におかれましては法幸多き一年になるよう祈念いたします。本年も相国寺派宗務本所、相国会本部を何卒よろしくお願い申し上げます。

(矢野謙堂 記)

えん みょう 平成29年正月号(第107号)
円明 平成29年1月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591
URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

相国寺御用達 北山金閣寺御用達 東山銀閣寺御用達



URL <http://matsuishuzo.com>



享保十一年創業 清酒「五紋神蔵」醸造元

松井酒造株式会社

京都市左京区吉田河原町1の6 電話 075 (771) 0246

相国寺
東京別院
施工

www.mizusawa-inc.co.jp

水澤工務店 東京都江東区木場5丁目6番地1号 TEL 03-3641-7111

鸚鵡牡丹図

伊藤若冲筆 江戸時代 鹿苑寺蔵

鸚鵡は、江戸時代に南方から舶載された鳥である。その可愛さや人の言葉を巧みにまねる事から、愛玩動物としてよく飼われていた。よってこのように自然界に生息する事は無かったはずである。若冲の思いと想像か。

本作は、赤・白と咲き誇る牡丹と緑色の松。そして太湖石に羽を休める白い鸚鵡。牡丹は「富貴花」とも呼ばれ、花の王とされている。また松は、常緑樹で季節に影響されず、やせた土地でも生育することから、古来より長寿の象徴とされている。牡丹と松と太湖石。本図は、吉祥の意味も込めて描いたのであろう。

作品解説／承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲



法堂内「蟠龍図」



浴室「宣明」



法堂とサクラ

相国寺 春の特別拝観

京都今出川
鳴き龍の寺

平成29年3月24日(金)～6月4日(日) 拝観時間：午前10時～午後4時

※4月8日(土)は、法要・行事のため、拝観時間の一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・浴室

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

※団体割引有り ※法要・行事のため、予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。

承天閣だより

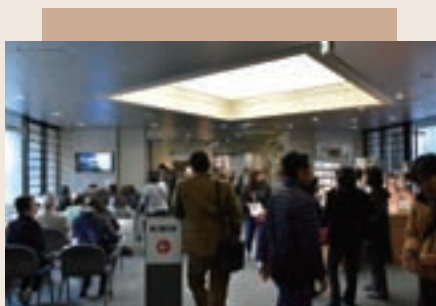
Jotenkaku Museum

生誕三〇〇年記念

「伊藤若冲展 前期」

平成28年7月1日～12月4日

若冲^{じやくちゆう}生誕三〇〇年を記念し、コロタイプ印刷により精密に復元された「動植綵絵^{どうしょくさいえ}三十幅」を一堂に展示いたしました。一五七日間で十万人の若冲ファンが訪れ大いに賑わいました。



活況な美術館館内



展示風景

現在の展観

生誕三〇〇年記念「伊藤若冲展 後期」 （本邦初公開「鸚鵡牡丹図」他）

会期 平成28年12月15日～平成29年5月21日

伊藤若冲（一七一六～一八〇〇）生誕三〇〇年を記念し、引続き後期の展観を行っております。若冲は、鳥の絵を生涯描き続けました。中でも、鶏は特に好みました。様々な鳥達を、自然の中であらゆる肢体で、あらゆる表情で、あらゆるしぐさで描いております。この度の展示作品は、西年にちなみ、初公開の「鸚鵡牡丹図」^{おうむ}、「岩上鷹図」を始め鶏、鴨、雁、^{はちろう}叭々鳥、^{ひすい}翡翠（かわせみ）等の鳥、また同じく初公開の「牡丹図 南海賛」^{なま}「燕図 仙厓義梵賛」^{せんがいぎぼん}「布袋軍配図」他名品の数々。後期も若冲畢竟の作品をぜひ御堪能下さい。

承天閣事務局



鹿苑寺境内より出土

「北山大塔 金銅製相輪か！」

京都市考古資料館で特別展示される

平成二十八年七月九日より十一月二十七日まで京都市考古資料館（京都市上京区）にて開催された「世界遺産を掘る！」の特別展で、北山鹿苑寺から出土した金銅製の相輪そうりんの一部が展示公開された（他に鹿苑寺・慈照寺から出土した瓦や皿、金属金具なども展示）。

今回出土した相輪の一部は、室町時代の溝跡から見つかり、重量八・二キログラム、横三七・四センチメートル、厚さ一・五センチメートルの青銅製で復元径は二・四メートルある。相輪は、仏塔の屋根の最上部の突き出た部分で、九輪と



京都市考古資料館展示風景
画像提供：(公財)京都市埋蔵文化財研究所

いう輪形の金属製品である。出土品の厚さや復元径から、大型の九輪が復元できるため、必然的に巨大な仏塔の部材であったことがわかり、青銅製であるが、表面は金鍍金（金メッキ）が施されたことがわかった、と京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館から報告がなされた。

「北山大塔」は室町幕府第三代將軍足利義満が北山第（鹿苑寺）に建立したとされる塔で、応永十一年（一四〇四）四月三日に、相国寺の大塔を北山に建てるための立柱の儀を行う（『大乘院日記目録』など）とあり、応永十五（一四〇八）年の義満没後、応永二十三年（一四一六）一月九日に落雷により七重大塔が焼失したと記録に残る（『看聞日記』かんもんなど）。

そもそも大塔は、義満が相国寺元境内地に応永六年（一二九九）、高さ三十六丈（約一〇九メートル）と伝わる七重大塔を建立し、九月十五日の御塔供養で「千僧供養」という落慶法要をしたことに始まる（『相国寺塔供養記』など）。



相輪出土状況
画像提供：(公財)京都市埋蔵文化財研究所



金銅製「相輪」
画像提供：(公財)京都市埋蔵文化財研究所

しかし、四年後の応永十年（一四〇三）に、相国寺の大塔は落雷により炎上焼失してしまふ。そして翌十一年に北山第で再建されたのが「北山大塔」で、冒頭で紹介した相輪はこの「北山大塔」に用いられた可能性がある。義満は金閣を含めた北山第とその周辺に大きな都市を築く都市構想を持っており、その一つとして建立したとされるが、実際の建立場所は特定されておらず、今までそれを裏付ける出土品もなかったため、今回の発掘による発見は大きなニュースということになり、新聞でも「幻の大塔あった」と紹介された。

この「北山大塔」は、応永二十三年に落雷により焼失し、第四代將軍足利義持の在位中に、再度相国寺旧境内地に場所を戻して、三度目の大塔再建がなされた。第八代將軍足利義政在位中、応仁の乱開戦後にあたる文明二年（一四七〇）、三度落雷により焼失し、その後再建されることはなかった（『親長卿記』など）。現在、相国寺境内地の東側には「塔之段町」という地名があり、この付近に大塔があったとされるが、詳細は不明である。

今回、京都大学大学院工学研究科の富島義幸氏により、相国寺七重大塔の復元考証が行われ、コンピュータグラフィックス（CG）による画像が作成されたので、ここに合わせて掲載し紹介する。

教 学 部



参考資料 相国寺七重大塔復元CG（復元考証：富島義幸 CG制作：竹川浩平）



坐禅中の研修生



講師の中江好喜氏より仏像の講義を受ける



ほらかい
法螺貝を吹く宮城泰年聖護院門主



記念撮影



研修生に御垂訓中の有馬管長

第二十五回 相国会本部研修会開催

平成28年10月26日～27日

(詳細は、本文50ページ、本山だより74ページを参照)

撮影◎ 教学部

とわ
永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

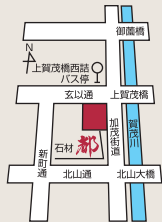


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本 社 : 〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 (上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工 場 : 京都市北区上賀茂神山 389 番 24 (洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
夜 間 : 京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

隨處作主
立處皆眞
(臨濟録)

隨處に主と作れば、
立處皆眞なり。

こだわりや妄念を切り捨てれば、至るところが眞実の世界であり、本当の自分自身を知ることが出来る。

▲臨濟寺門前にて「臨濟禪師遠諱法要」に列席する僧侶を待つ信徒

撮影◎柴田明蘭氏